

平成15年度 年間分析版

# 授業アンケート

[設問A ~ K 調査結果報告書]

金沢工業大学

## INDEX

< 1 > 全体概略	2
< 2 > 回答者の基本属性	3
< 3 > 各設問の単純集計	4
< 4 > 昨年との比較	7
< 5 > クラス別の比較	9
< 6 > 学系別の比較	15
< 7 > 成績別の比較	21
< 8 > 満足度別の比較	27
< 9 > 科目区分別の比較	32
< 10 > 学期別の比較	38
< 11 > まとめ	41
< 12 > 調査票見本	44

# < 1 > 全体概略

## 1) 調査の概略

本調査の概略は下記の通り。

- 平成15年度の春、秋、冬にKIT在校生に対して実施した「授業アンケート」の全結果を分析対象とした。
- 本調査は、受講した学生から既存のカリキュラムの評価を聞き、今後のカリキュラムのあり方を考えるためのベースデータを得ることを目的としている。
- 集計の対象としたデータは84,135件であり、内訳は下記の通り。  
春:30,514件 秋:28,157件 冬:25,464件
- 実施期間:各授業科目の最終日
- 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、ならびに回収

## 2) 分析の概略

分析は下記のような方法で行った。

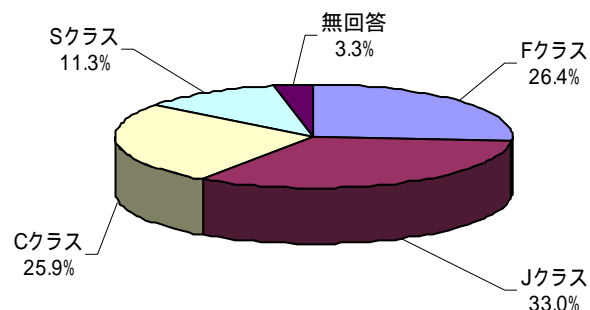
- 昨年度までは加重平均を使って分析をしたが、設問によって選択肢の設定方法や選択肢の数が異なり、一つのグラフに表示すると誤解を招く可能性があるため、今回は全てのグラフを帯グラフで表示して分析を行った。
- 上記のように昨年とは分析方法が異なるが、同じ設問に関しては帯グラフで前年との比較を行った。
- 巻末に調査票サンプルを添付しているが、設問項目は下記の通り。

A	この科目は興味を持って受講することができましたか	十分に持てた	持てた	どちらかといえば持てた	あまり持てなかった	持てなかった
B	一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか	1時間以上	1～2時間	1時間程度	30分程度	学習は特にしなかった
C	授業が分からないとき、オフィスアワー(OH)は有効でしたか	有効だった	まあ有効だった	あまり有効でなかった	有効でなかった	利用しなかった
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか	授業中に質問	TAまたはチューターに質問	自分で調べた	友人や先輩に聞いた	行動しなかった
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか	よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか	よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	教科書・指導書はなかった	
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか	適切であった	どちらかといえば適切であった	進度は速かった	進度は遅かった	
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか	十分役立った	役立った	あまり役立たなかった	課題またはレポート等はない	
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか	効果的	どちらかといえば効果的	あまり効果的でなかった	効果的でなかった	
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか	工学基礎教育センター	学習支援デスク	LC	自習室	学内施設は利用しなかった
K	あなたはこの科目に満足していますか	満足している	まあ満足	少し不満	不満	

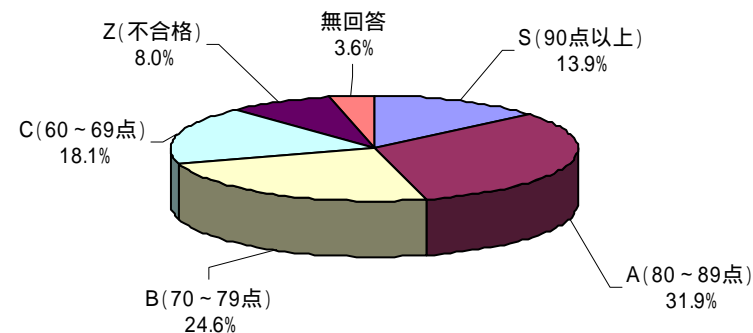
## <2> 回答者の基本属性

- 今回の回答者のクラス別の割合を見ると、Fクラスが26.4%、Jクラスが最も多く33.0%、Cクラスが25.9%、Sクラスが11.3%であった。
- 学系ではM(機械系)が最も多く21.6%であり、次いでD(情報系)が16.9%、E(電気系)が15.8%、A(建築系)が14.6%という順であり、最も少なかったのはR(材料系)で6.2%であった。
- 成績の割合ではA(80~89点)が31.9%で最も多く、SからCまでを合わせた合格者は88.5%であり、Z(不合格者)は8.0%であった。なお、Z(不合格者)には成績のD、E、Fが含まれているが、クロス集計などの集計ではZ(不合格)としてひとまとめにして扱っている。

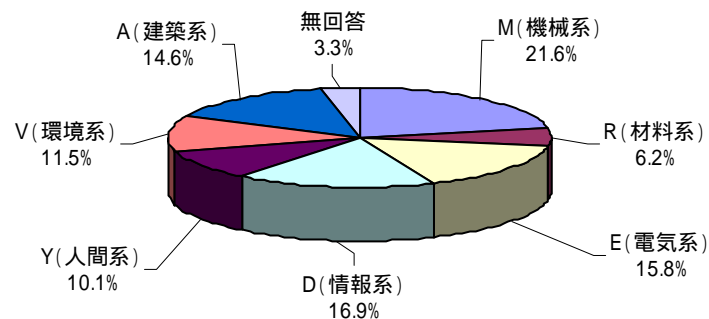
回答者のクラス分類



回答者の成績分類



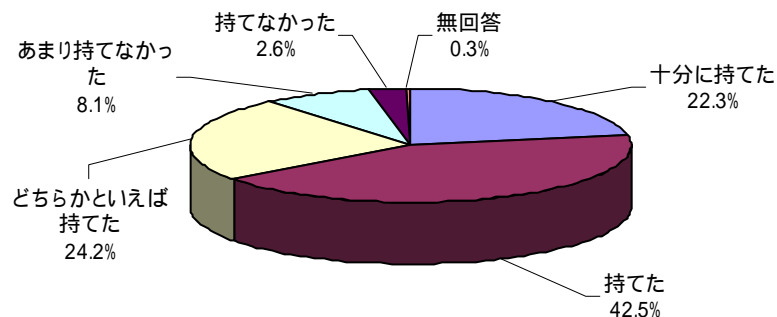
回答者の学系分類



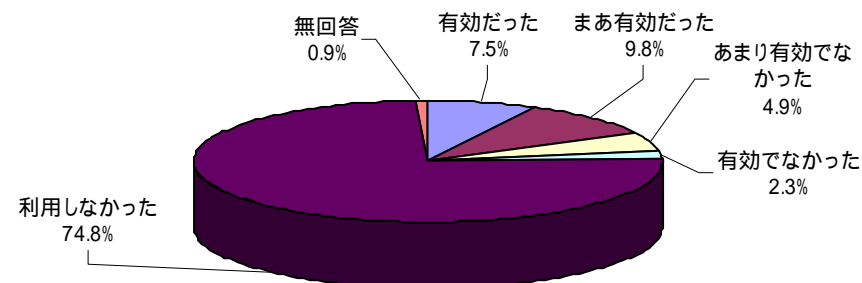
## <3> 各設問の単純集計

- 全回答の合計になるが、科目への興味に関しては「十分に持てた」が22.3%、「持てた」が42.5%であり、「どちらかといえば持てた」の24.2%までを合わせると89.0%が科目に興味を持っていると回答していた。
- 1回の授業に対する予習・復習に関しては、「学習は特にしなかった」が27.0%であり、残りの7割は何らかの学習をしていたことになる。時間数としては30分が最も多く27.7%であり、次いで1時間が20.4%であった。
- オフィスアワー（以下、OH）の有効性に関しては、74.8%と大多数が「利用しなかった」と回答しており、有効性を測るに至らなかった。
- 授業が分からない際の行動に関しては、「友人や先輩に聞いた」が最も多く40.7%であり、次いで「自分で調べた」が33.6%、「行動しなかった」が13.5%であった。「授業中に質問」や「TAまたはチューターに質問」といった、学校に頼っている割合は11.2%にとどまった。

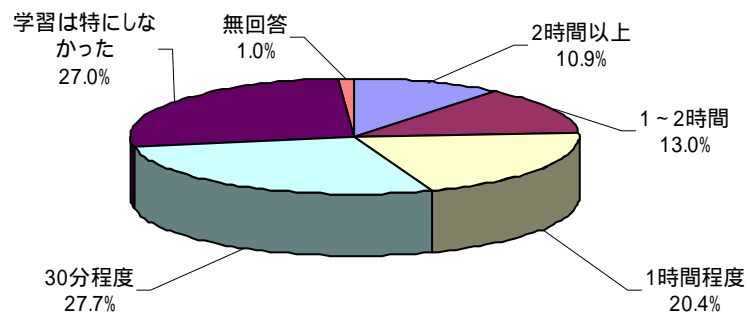
A: この科目に興味を持って受講することができましたか



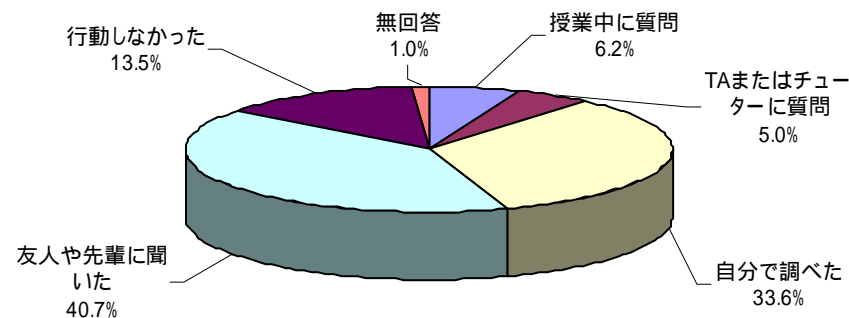
C: 授業が分からない時、オフィスアワー（OH）は有効でしたか



B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか

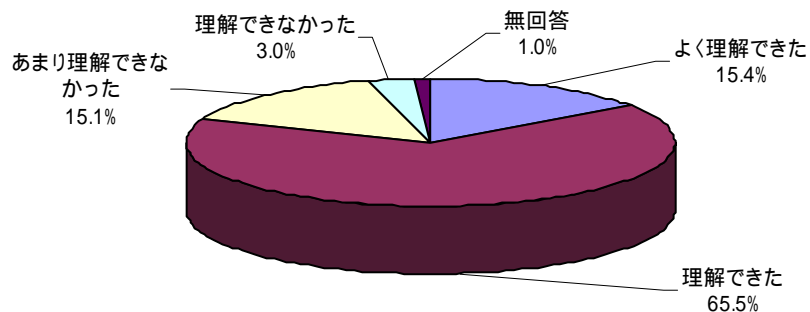


D: 授業の分からない点はオフィスアワー（OH）を利用する以外に、どのような行動を取りましたか

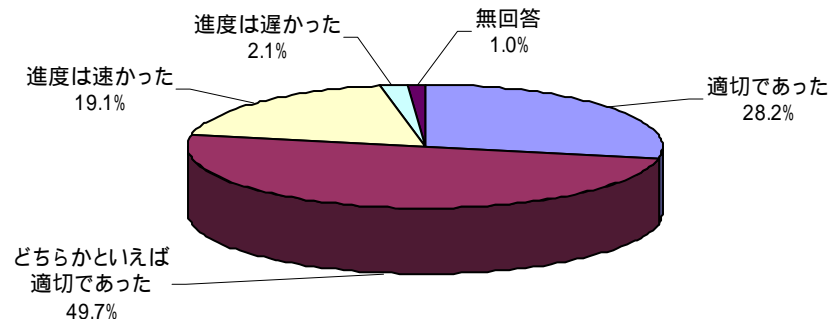


- 学習支援計画書の内容に関しては「よく理解できた」が15.4%、「理解できた」が65.5%であり、合計して8割は理解できていたようであった。
- 教科書・指導書の内容に関しては「よく理解できた」が11.9%、「理解できた」が55.2%で、合計すると67.1%が理解できていると回答しており、学習支援計画書の理解度より低いものであった。
- 授業の進度に関しては「どちらかといえば適切であった」が49.7%と約半数であり、「適切であった」(28.2%)と合わせると77.9%が進度に問題は感じていないようであった。ただし、19.1%は「進度が速かった」と答えていた。
- 課題やレポートに関しては「役立った」が55.1%と過半数であり、「十分役立った」の23.1%と合わせると78.2%が課題やレポートが役立ったと感じていた。

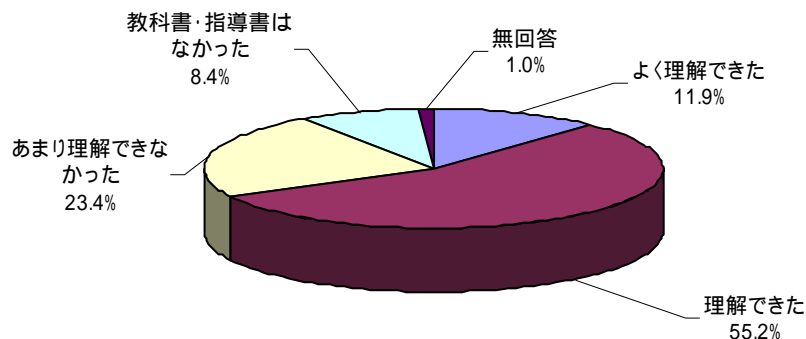
**E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか**



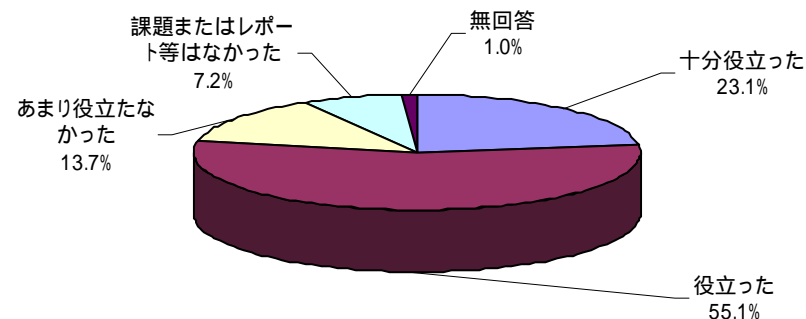
**G: 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか**



**F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか**

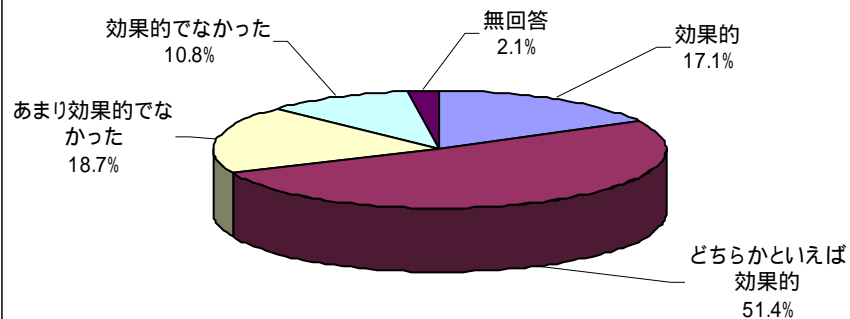


**H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか**

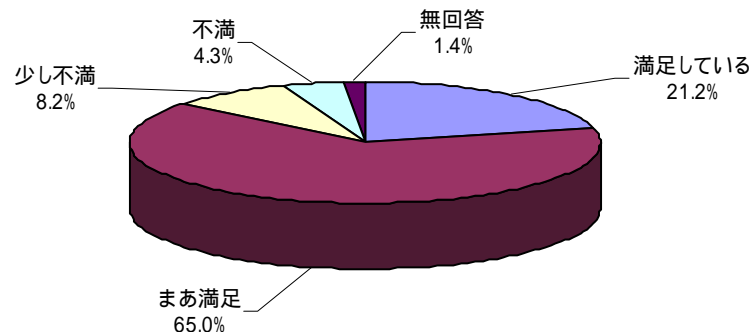


- 自己点検授業に関しては「効果的」が17.1%で、「どちらかといえば効果的」の51.4%を加えると68.5%は自己点検授業が学習に役立つと回答していた。
- 授業の理解を深めるために利用した場所に関しては、50.9%が「学内施設は利用しなかった」と回答していた。学内施設としては「LC」が最も多く22.0%であり、次いで「自習室」が18.8%であった。「学習支援デスク」「工学基礎教育センター」は3%台と利用率は低かった。
- 授業に対する総合評価である満足度を見ると、「満足している」が21.2%、「まあ満足度」が65.0%で、合わせて86.2%は満足している。しかし、「不満」が4.3%、「少し不満」が8.2%と、12.5%は不満を持っており、この不満層を少しでも減らすことが大きな目的となる。

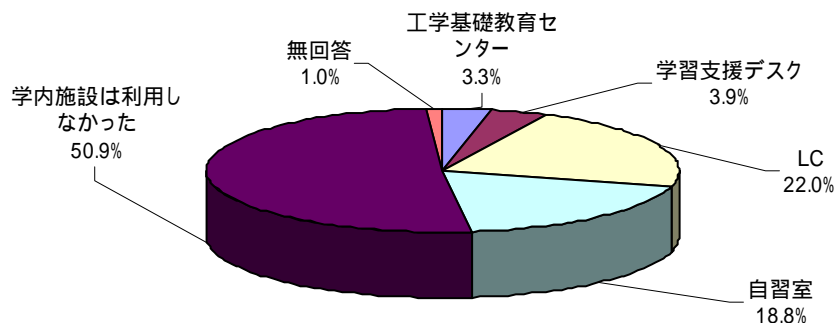
I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



K: あなたはこの科目に満足していますか

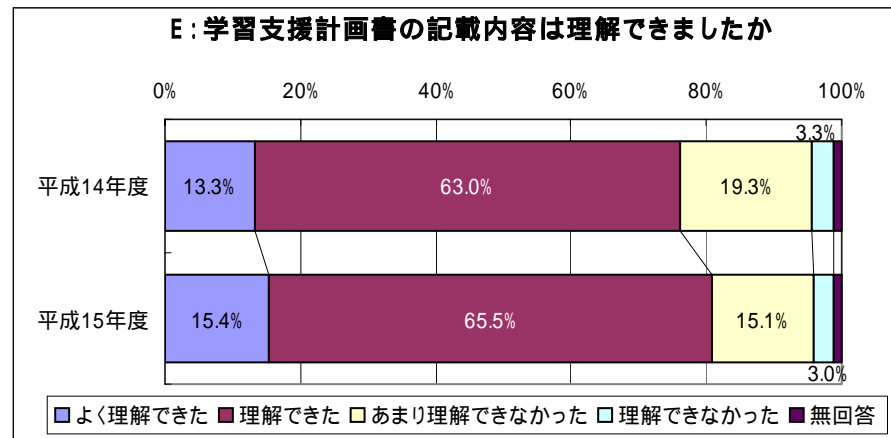
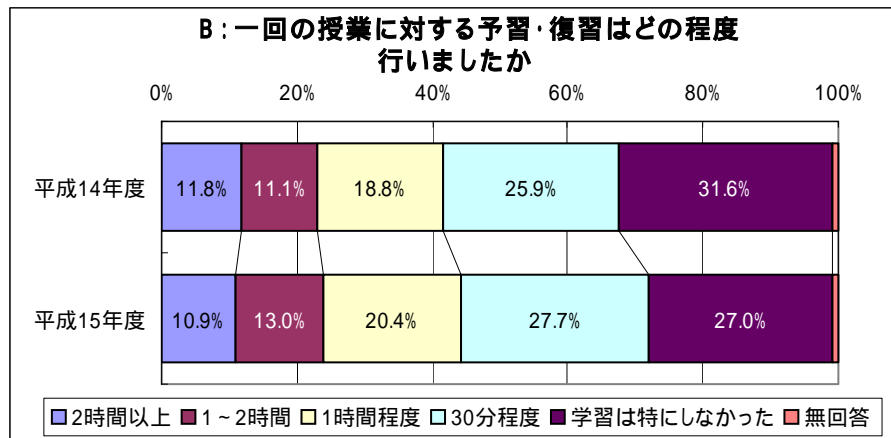
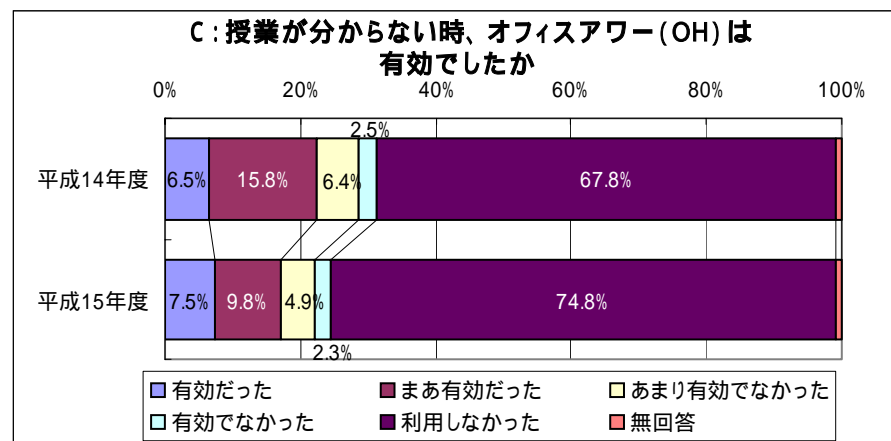
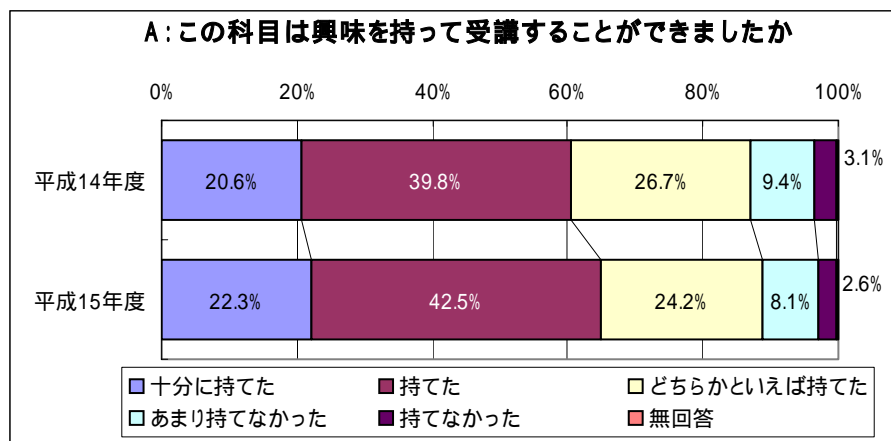


J: 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか



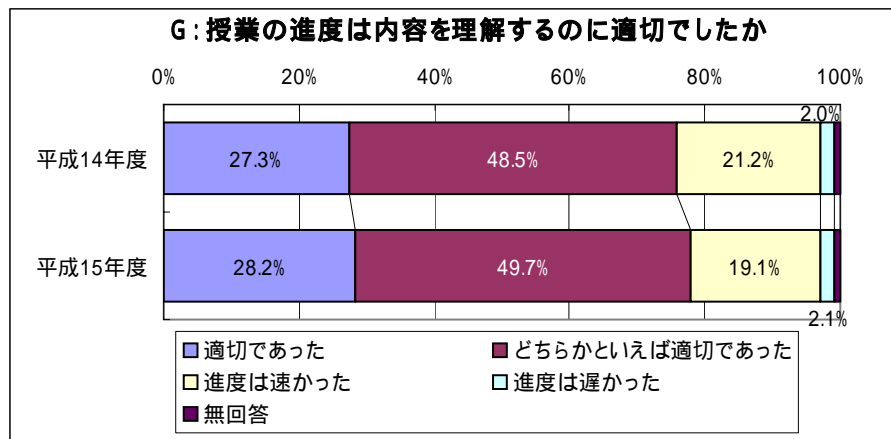
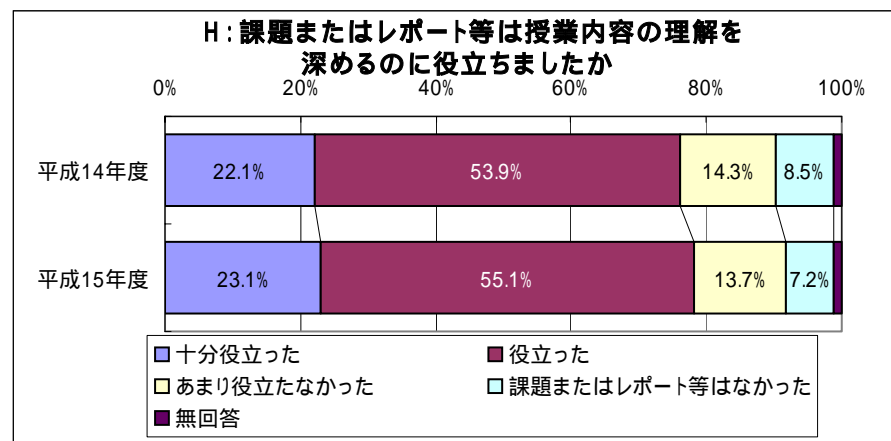
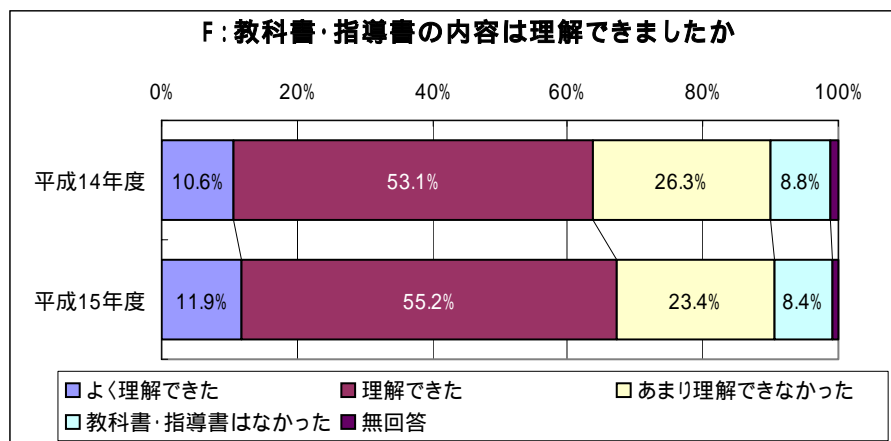
## < 4 > 昨年との比較

- 昨年の年間集計と比較したところ、科目に対する興味に関しては、「十分に持てた」「持てた」の割合が増加しており、全体としては授業に対する興味が高まっているといえる。
- 1回の授業に対する予習・復習に関しては「学習は特にしなかった」の割合が減少しており、学習時間が延びていることが分かる。
- OHの有効性に関しては、「利用しなかった」という割合が7.0ポイントも増加しており、OH自体の利用率が下がっていることから、有効性を議論するよりも利用率自体の向上が大きな課題になってきているといえる。
- 学習支援計画書の理解に関しては、「よく理解できた」「理解できた」の割合がどちらも高くなっており、学習支援計画書は分かりやすくなってきているといえる。





- 教科書・指導書の理解に関しても昨年より理解度が上がり、「よく理解できた」が1.3ポイント、「理解できた」が2.1ポイント上がっていた。
- 授業の進度に関しては「適切であった」「どちらかといえば適切であった」の両者ともに割合が増しており、昨年よりも授業の進度が適切になってきているといえる。そして、「進度は速かった」という意見は2.1ポイント減少しており、速いと感じる割合は減っていた。
- 課題やレポートに関しても「十分役立った」が1.0ポイント、「役立った」が1.2ポイント上昇しており、わずかではあるが課題やレポートの評価が上がったといえる。

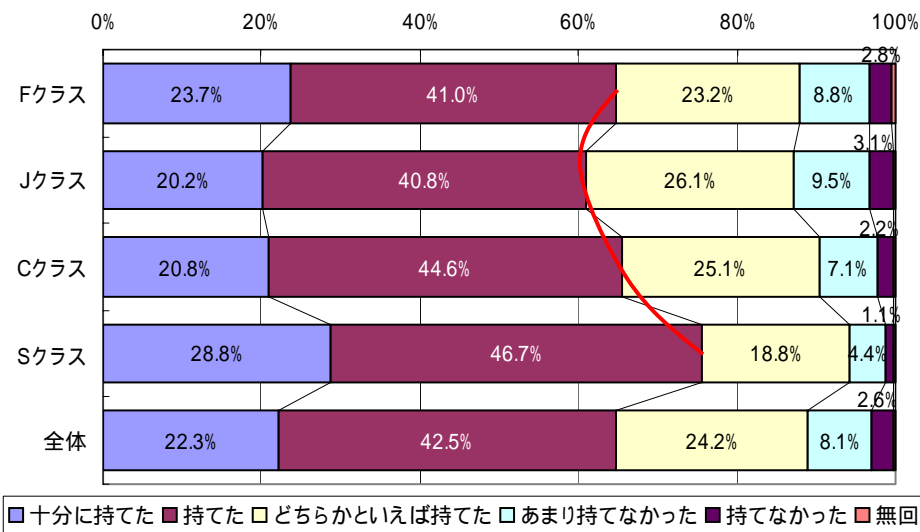


質問が昨年度と変わっているため、変更のなかった質問だけを比較している。

## <5> クラス別の比較

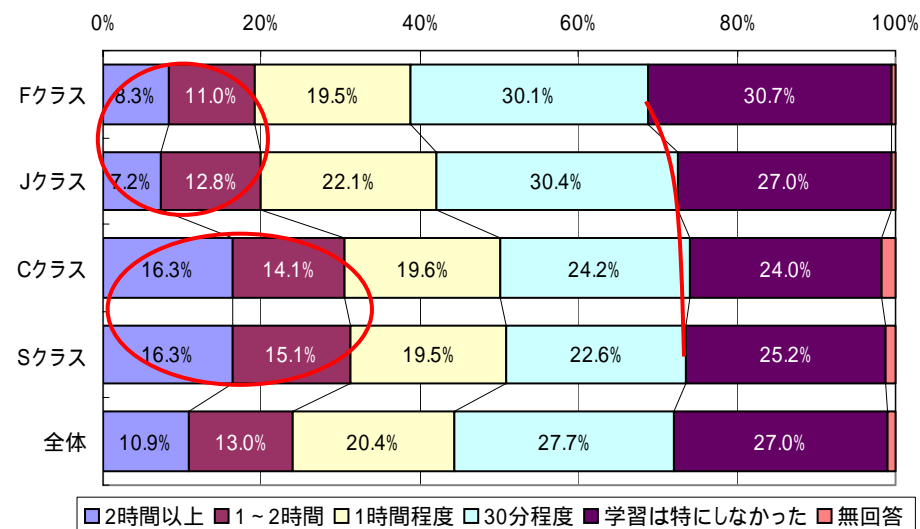
- 科目に対する興味をクラス毎に比較した。
- 「十分に持てた」は各クラスともに2割台であったが、Jクラスが最も少なく20.2%であり、最高であったSクラスの28.8%とは8.6ポイントの差があった。
- 「持てた」についてもJクラスが最も低く、Sクラスが最高であり、「十分に持てた」と「持てた」を合わせたものを見ても、Jクラスが最も低く、Sクラスが最も高かった。
- これらを見ると、授業に対する興味はFクラスからJクラスになった段階で一度低下するが、Cクラスで元に戻りSクラスで最高になっているといえる。

A: この科目は興味を持って受講することができましたか

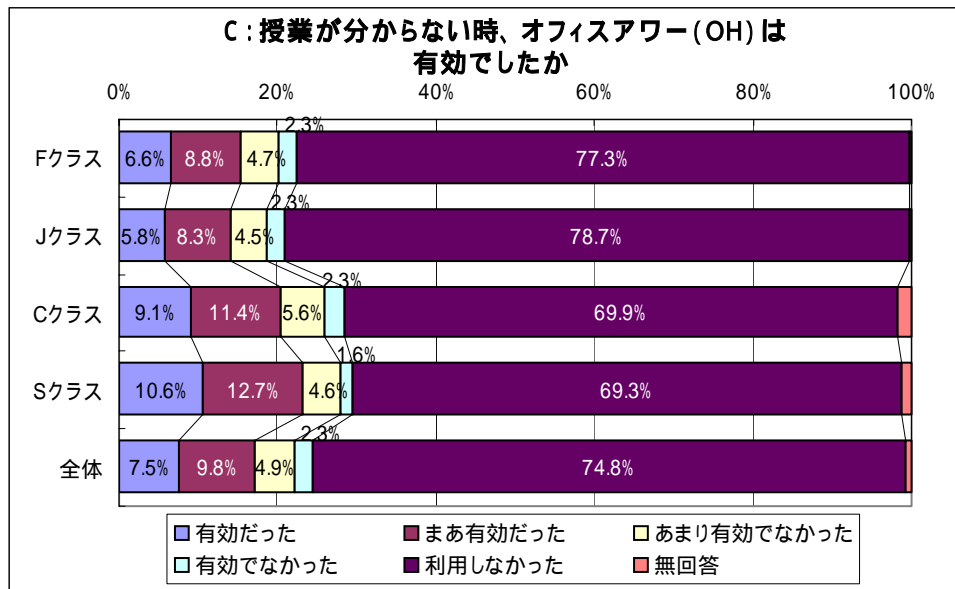


- 一回の授業に対する予習・復習に関して、まず「学習は特にしなかった」の割合を見ると、Fクラスが30.7%と少し多かったものの、Jクラス、Cクラス、Sクラスではほとんど変わらなかった。
- 一方、「2時間以上」「1～2時間以上」を見るとFクラス、Jクラスでは各々、同じような傾向であり、CクラスとSクラスが同じような傾向であった。
- これらを見ると1回の授業に対する予習・復習は、FクラスからJクラスではそれほど大きく変わらないが、Cクラスに長くなりSクラスまで続いている。ただし、学年に関わらず3割弱程度は学習をしていない学生がいることも確認できた。

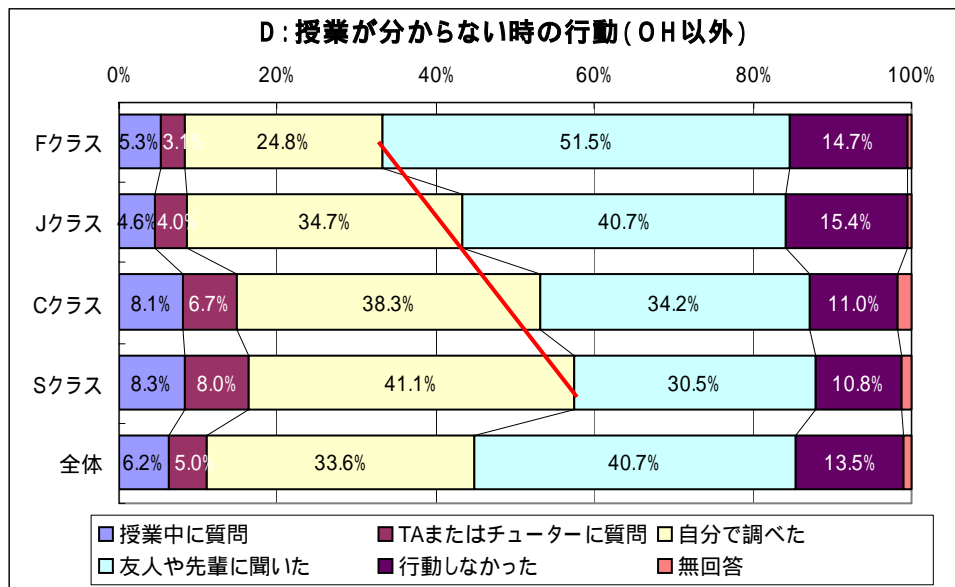
B: 一回の授業に対する予習・復習時間



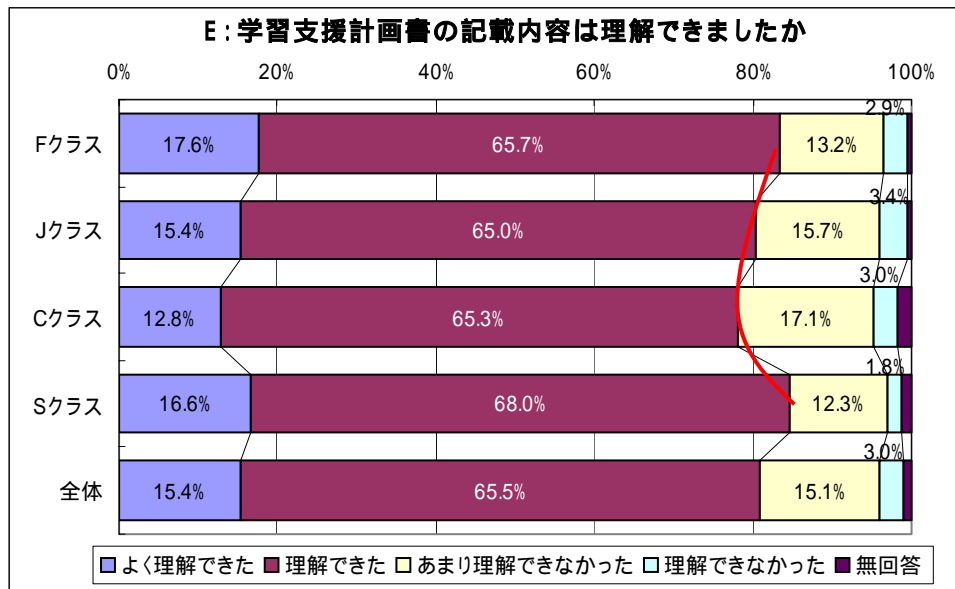
- OHの有効性に関しては、OHを「利用しなかった」という回答が非常に多かった。
- OHを「利用しなかった」という割合はFクラスとJクラスではほぼ同じで8割弱であった。そして、CクラスとSクラスも7割弱で同じ程度であり、Cクラス、Jクラスの方がやや多くOHを活用しているといえる。
- 利用者の割合が少ないため、OHの有効性を評価するのは難しいが、Sクラスが最も高く評価しており、Cクラスがそれに次ぐ評価であった。



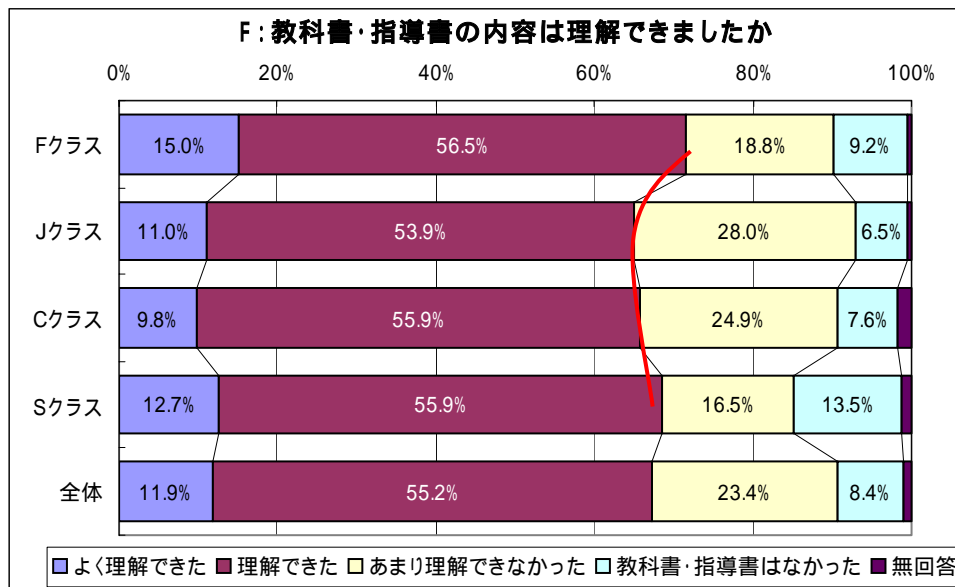
- 授業が分からない時の行動に関して目立ったのは「自分で調べた」と「友人や先輩に聞いた」であり、Fクラスでは「友人や先輩に聞いた」が51.5%と過半数であり「自分で調べた」が24.8%であった。
- しかし、学年が上がるに連れて「自分で調べた」の割合が増加して、「友人や先輩に聞いた」が減少する傾向が見られた。
- また、伸び率はわずかであるが学年に上がるに連れて「授業中に質問」と「TAまたはチューターに質問」も多くなっていた。
- これらを見ると授業が分からない際、低学年ほど友人や先輩といった身近に聞いている割合が高く、学年が上がるに従って自分で調べる傾向が強まっている。また、高学年ほど授業中の質問やTAやチューターへの質問も増加しているといえる。



- 学習支援計画書の理解に関してはクラスによる差はあまり大きくなかった。
- 「よく理解できた」は最も高かったFクラスと、最も低かったCクラスとの差は4.8ポイントにとどまった。
- 「理解できた」もクラスの差はあまり大きくなく、最も多かったSクラス(68.0%)と最も少なかったJクラス(65.0%)の差は3.0ポイントであった。
- 最終的に「よく理解できた」と「理解できた」の合計もクラスによる差は少なく、学習支援計画書の理解度はクラスによる差があまりないといえる。



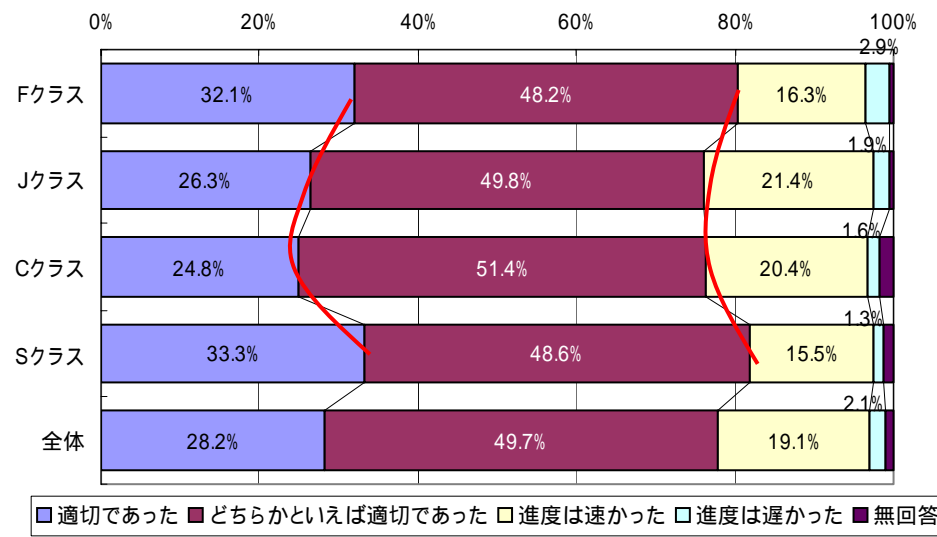
- 教科書・指導書の理解に関しては、「教科書・指導書はなかった」という割合がSクラスで多めであったが、クラスによる差はあまり大きくなかった。
- Fクラスでは「よく理解できた」と「理解できた」を合わせた割合が71.5%と少し多めであったが、Jクラス、Cクラス、Sクラスはあまり差がなく65.0%前後であった。
- これらを見ると、教科書・指導書の理解度はJクラスで少し低下してCクラス、Sクラスでもそれほど変化は見られない。そして、Sクラスでは教科書・指導書がない授業が多い傾向があるといえる。



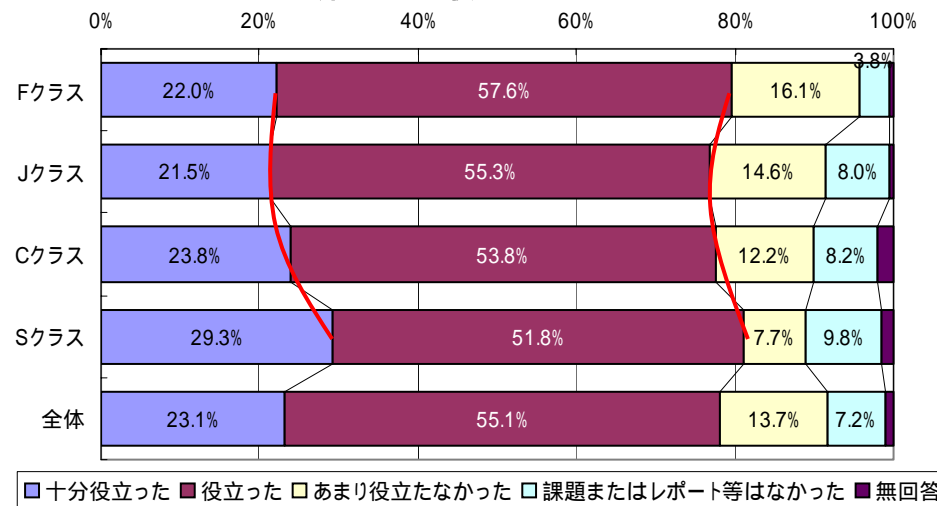
- 授業の進度に関して「適切であった」はFクラスとSクラスが高めであり、その間のJクラスとCクラスが低いという傾向があった。
- また、「適切であった」と「どちらかといえば適切であった」を合わせたものも、差はあまり大きくないがFクラスとSクラスが高めでJクラスとCクラスが低めであった。
- そして、「進度は速かった」という回答はJクラスとCクラスで多いという傾向が見られた。

- 課題・レポートの有効性に関しても、クラスによる差はあまり大きくなかったが、高学年ほど有効性を感じているという傾向が見られた。
- また、わずかな差であるが高学年ほど「課題またはレポート等はなかった」という割合が高い傾向が見られた。
- これらを見ると、授業の特性からだと思われるが高学年ほど課題やレポートがない傾向が強かったが、その他の授業に関して見ると、高学年ほど授業やレポートの有効性を評価している割合が高いといえる。

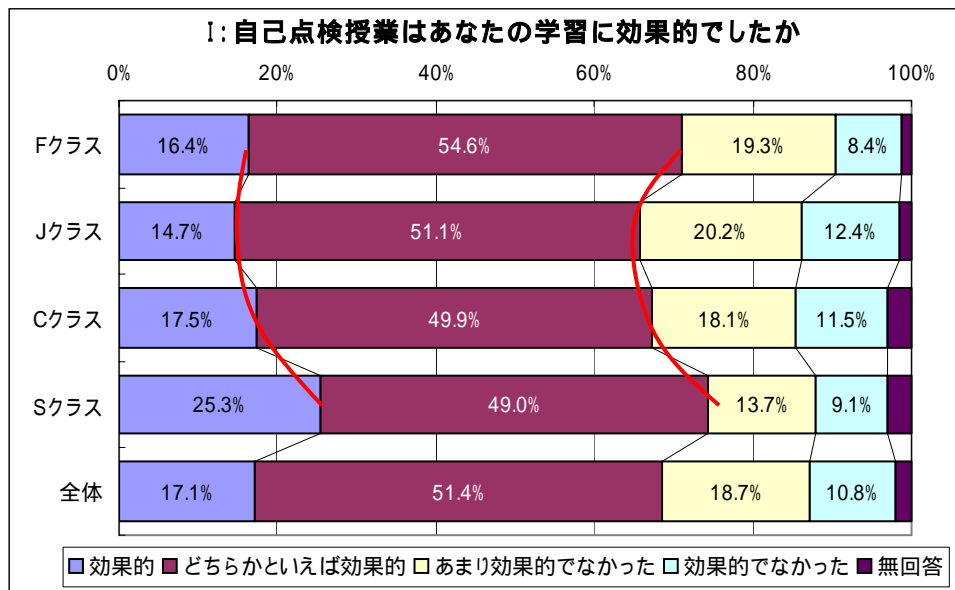
G: 授業の進度評価



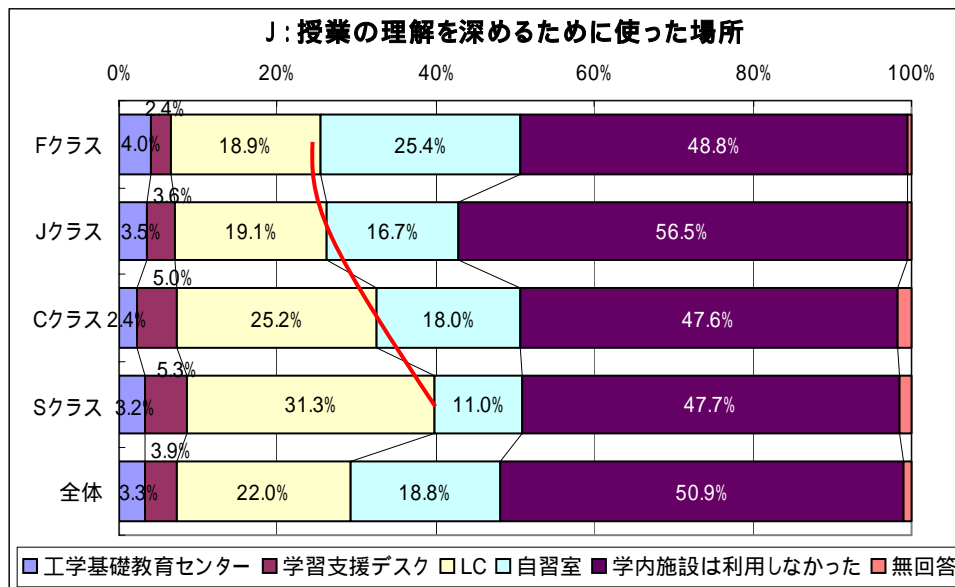
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



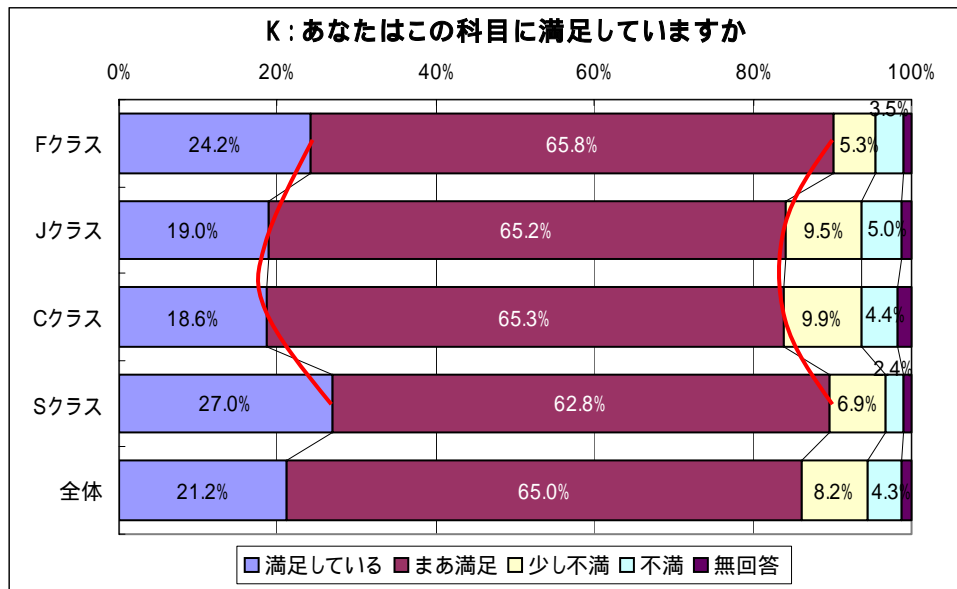
- 自己点検授業の有効性に関して、「効果的」を見るとFクラス、Jクラス、Cクラスの間ではそれほど差はないがSクラスは高く評価していることが分かる。
- また、「効果的」と「どちらかといえば効果的」という肯定的な意見の合計を見ると、FクラスとSクラスが少し高めで、JクラスとCクラスが低めである。
- これらを見ると、Sクラスが自己点検授業を最も高く評価しており、Fクラスの評価もやや高めであるといえる。



- 授業の理解を深めるために使った場所に関しては、「学内施設は利用しなかった」の割合が高い点が特徴的であり、Jクラスが最も学内施設を利用していないことが分かった。
- 「工学基礎教育センター」と「学習支援デスク」の利用度はクラスによって変わらなかった。
- 「LC」の利用度はFクラスの18.9%に比べてSクラスでは31.3%であり、高学年ほど高い傾向が見られた。
- 逆に「自習室」の利用度は高学年ほど低くなっており、低学年の時は「自習室」を利用するケースが多かったが、高学年になると「LC」を使うようになってきているという行動があるようであった。



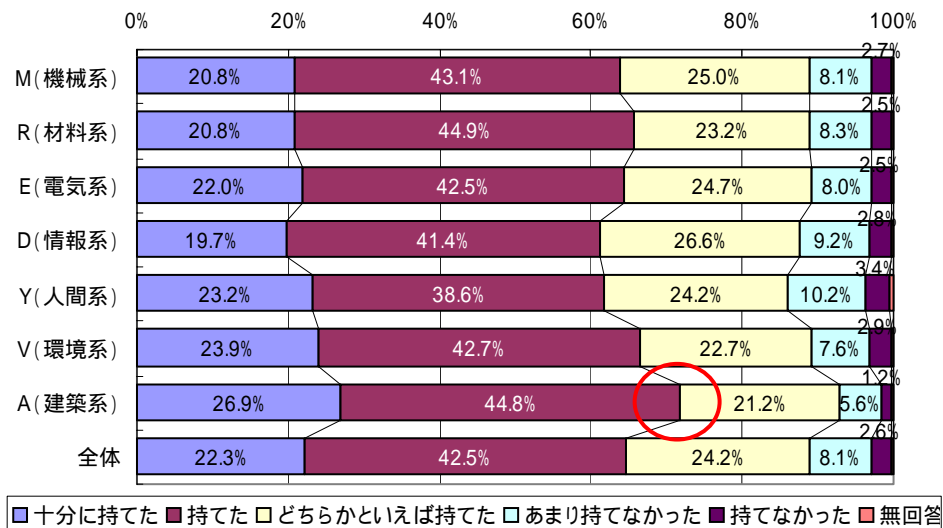
- 満足度に関してもFクラスとSクラスが高めで、JクラスとCクラスが低いという傾向が見られた。
- どのクラスでも「満足している」と「まあ満足」の合計は8割を超えており満足度は高めだといえるが、多くの項目でJクラスとCクラスの評価や満足度が低い傾向が見られた。
- 今後は、このように中間の学年で評価が下がる原因を探っていくことが重要になると思われる。



## < 6 > 学系別の比較

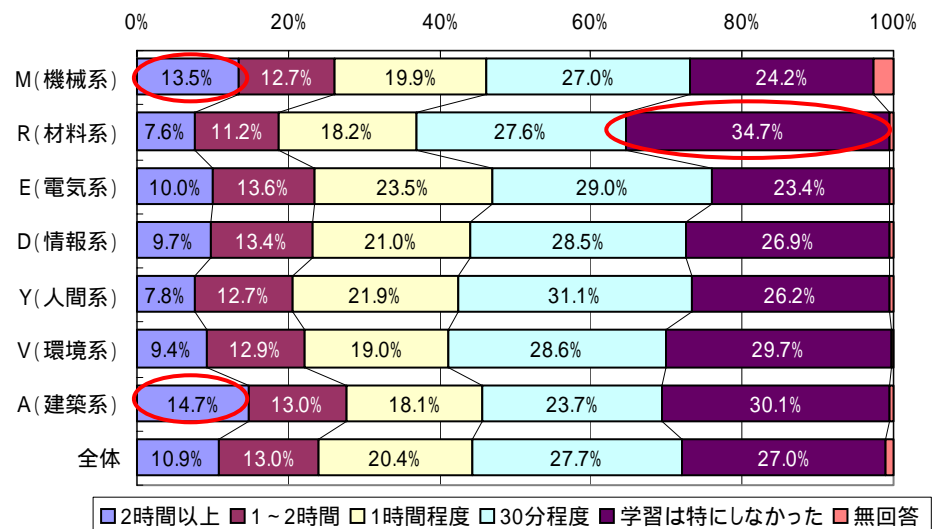
- 科目に対する興味を学系別に比較したところ、「建築系」が「十分に持てた」「持てた」の両方とも高く、科目に対する興味が最も高いことが確認できた。
- その他の学系を見ると「環境系」や「材料系」も興味を持っている割合は高めであったが、他の学系と比べてそれほど大きな差がある訳ではなかった。

A: この科目は興味を持って受講することができましたか



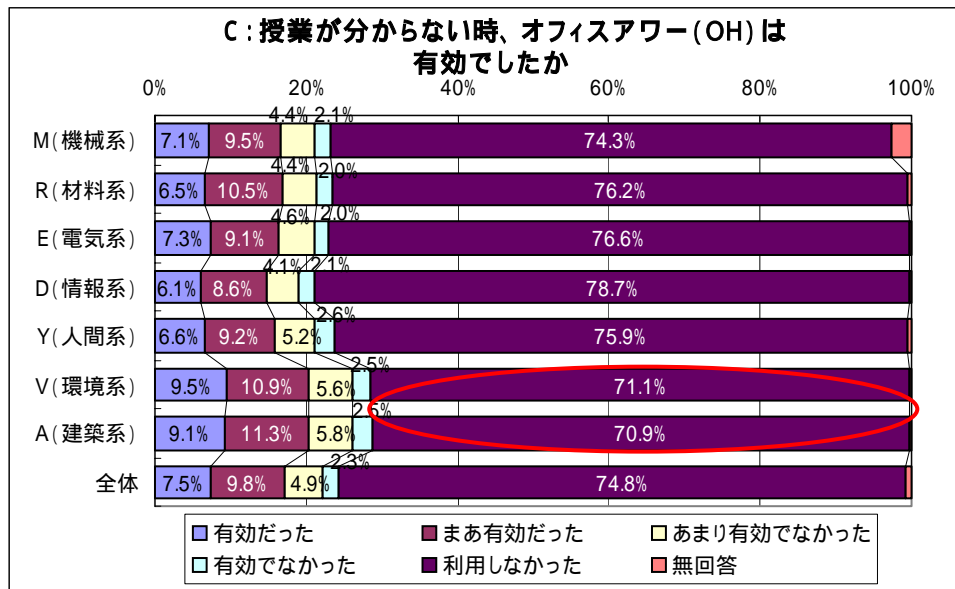
- 1回の授業に対する予習・復習時間に関して、まず「学習は特にしなかった」の割合を見ると、「材料系」が比較的多めである点が目立った。
- 「2時間以上」を見ると「機械系」と「建築系」が他の学系よりもわずかに多めであったが、「1～2時間」は学系による差はほとんどなかった。
- これらを見ると、1回の授業に対する予習・復習時間では、「機械系」と「建築系」がやや多めであり、「材料系」は予習・復習に時間を割いている割合が少ないといえる。

B: 一回の授業に対する予習・復習時間

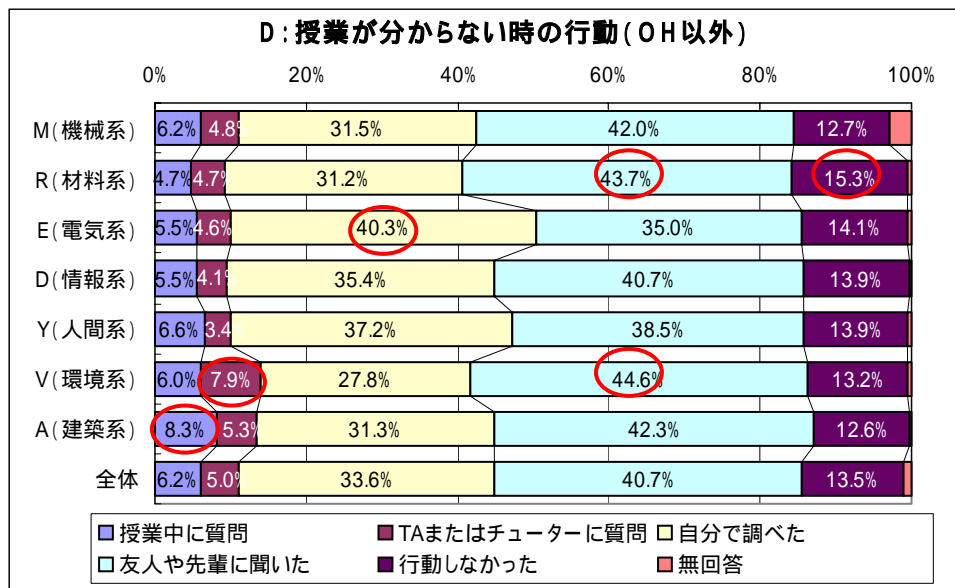




- OHの有効性に関して、まず、「利用しなかった」を見ると「環境系」と「建築系」では「利用しなかった」という回答が少なめであり、OHを利用している割合が高いことが分かる。
- 上記との連動になるが、「環境系」と「建築系」ではOHが「有効だった」「まあ有効だった」という割合も高めであった。
- 今後はOHの利用率を高めることが大きな目標になるため、なぜ「環境系」「建築系」がOHを利用する割合が高いかを調べる必要もあると思われる。

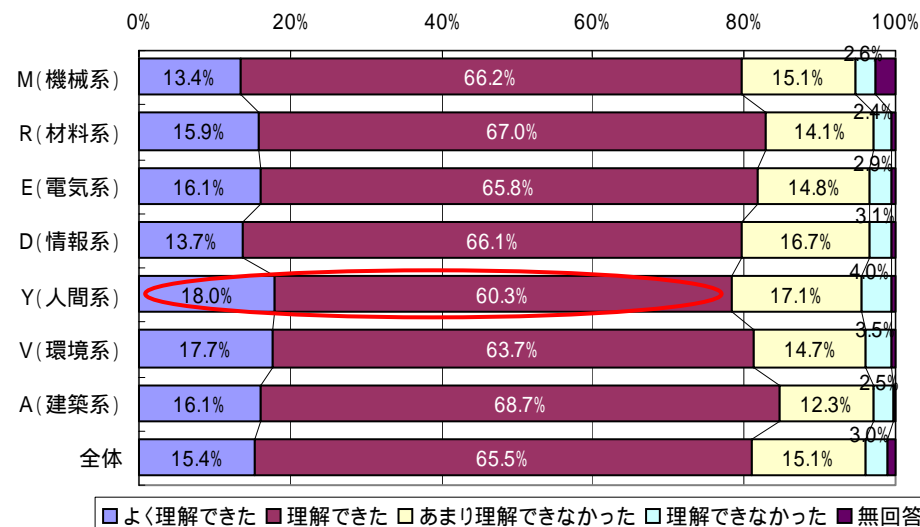


- 授業が分からない時の行動を見ると、「授業中に質問」の割合は「建築系」で高めであり、「TAまたはチューターに質問」は「環境系」で高めであった。
- また、「自分で調べた」は「電気系」で高めであり、「友人や先輩に聞いた」は「材料系」と「環境系」で高めであった。
- そして「行動しなかった」の割合は「材料系」で高めであった。



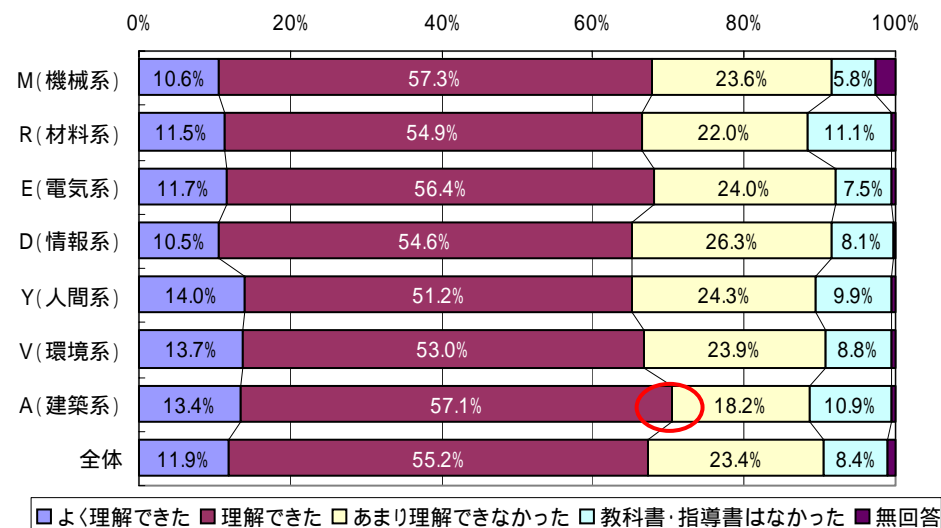
- 学習支援計画書の理解に関しては、学系による差はわずかずつあるものの、それほど大きな差ではなかった。
- ただし、「人間系」は少し特徴的であり、「よく理解できた」は最も高く、一方で「あまり理解できなかった」「理解できなかった」も多かった。他の学系と比べると、学習支援計画書の理解に関して、よく理解できている層と理解できていない層に分かれる傾向があると思われる。
- また、「よく理解できた」と「理解できた」を合わせると、「材料系」と「建築系」の理解度がわずかに高めといえる。

E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



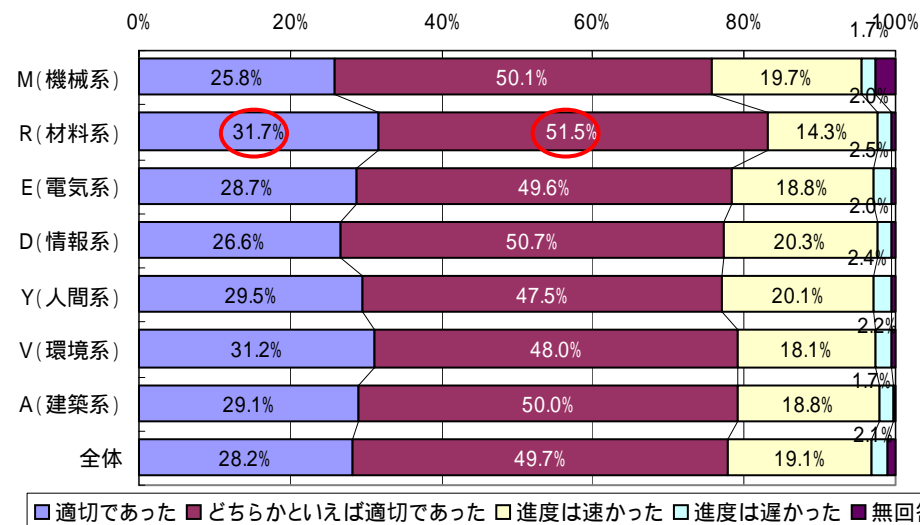
- 教科書・指導書の理解に関しても、学系による差はほとんどないといえる。
- ただし、「よく理解できた」と「理解できた」を合わせた点を見ると、「建築系」がわずかに理解度が高いように見受けられる。

F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



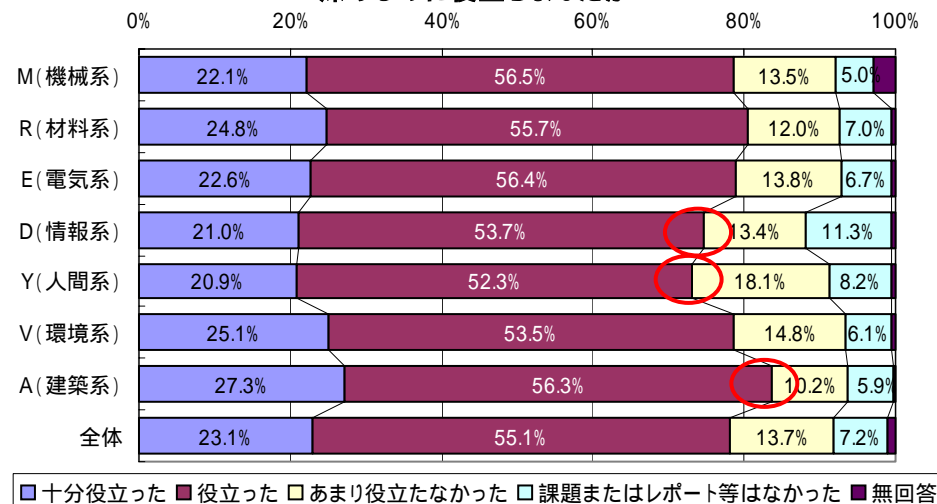
- 授業の進度評価も学系による差はそれほど大きくなかった。
- ただし、「材料系」だけは「適切であった」と「どちらかといえば適切であった」を加えた割合が83.2%と8割を超えており、授業の進度に対して最も不満が少ないといえる。

G: 授業の進度評価



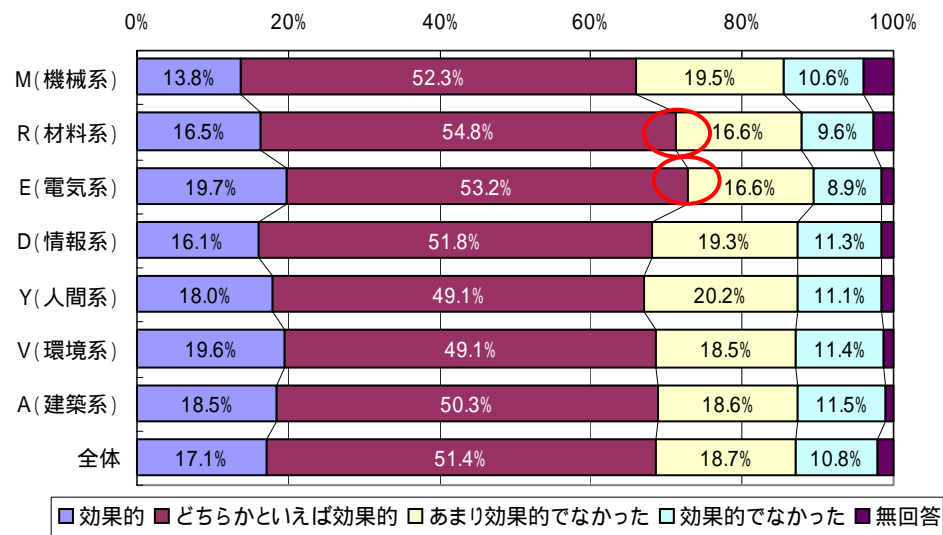
- 課題やレポートの有効性に関しては学系による差がわずかに見られた。
- 「十分役立った」と「役立った」を合わせた数値を見ると、「建築系」が課題やレポートが役立ったと感じており、「人間系」「情報系」は役立っていないと感じているといえる。

H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



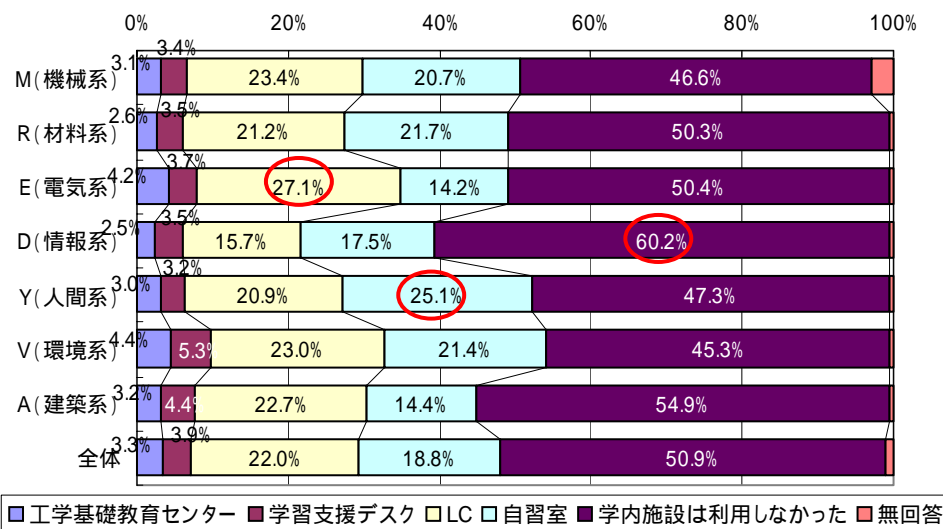
- 自己点検授業の有効性に関しても学系による差がわずかに見られ、「効果的」「どちらかといえば効果的」を合計すると、「材料系」「電気系」が比較的高めに評価していた。

I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか

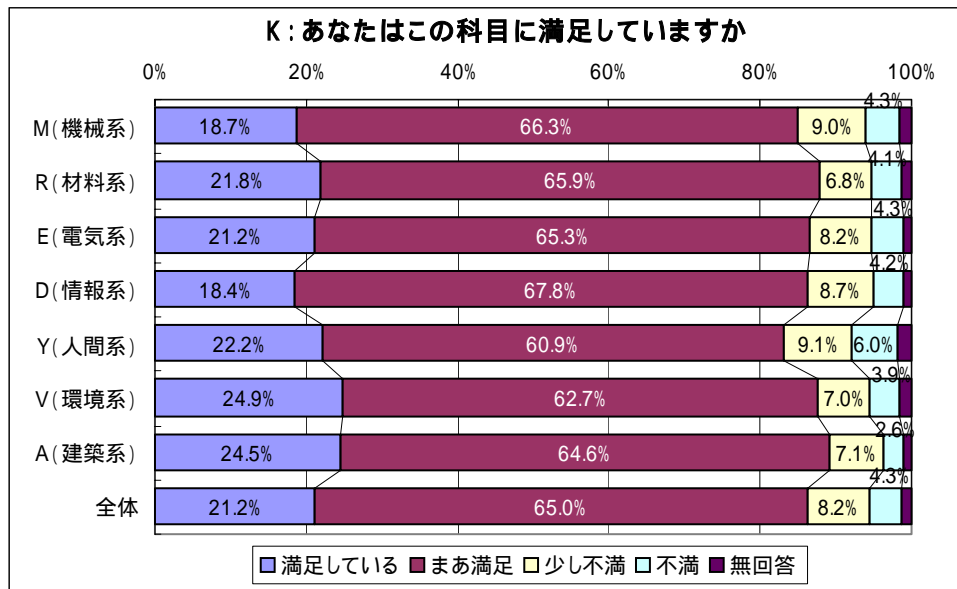


- 授業の理解を深めるために使った場所を見ると、「工学基礎教育センター」と「学習支援デスク」の利用度は学系によってあまり差が見られなかった。
- 次に「LC」の利用を見ると「電気系」で多めであり「情報系」で少ないという傾向が見られ、「自習室」に関しては「人間系」の利用が多めであった。
- また、「学内施設は利用しなかった」の割合は「情報系」が多めであった。

J: 授業の理解を深めるために使った場所

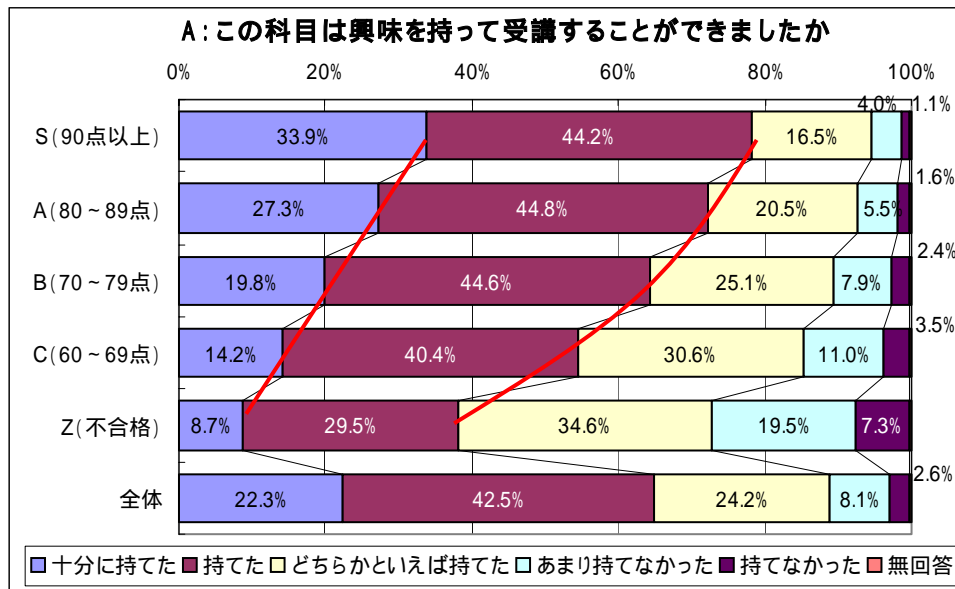


- 科目に対する満足度に関しては、学系による差があまり大きくなかった。
- 「満足している」と「まあ満足」の合計を見ると、差は小さいものの「建築系」が最も高く89.1%であった。逆に最も低かったのは「人間系」で83.1%であり、その差は6.0ポイントであった。
- 全体を見る上で最も重要な満足度であるが、学系による差はあまりないことが分かった。

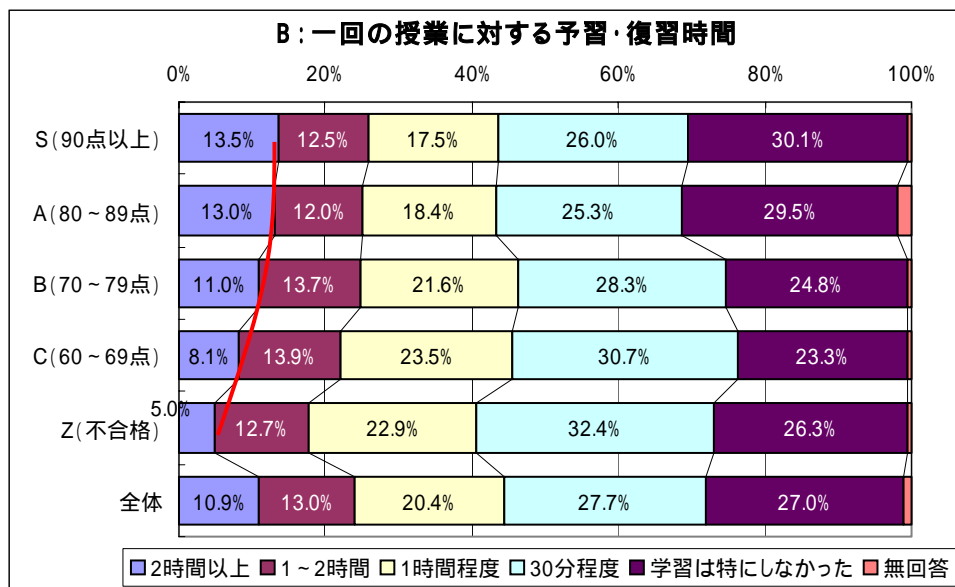


## <7> 成績別の比較

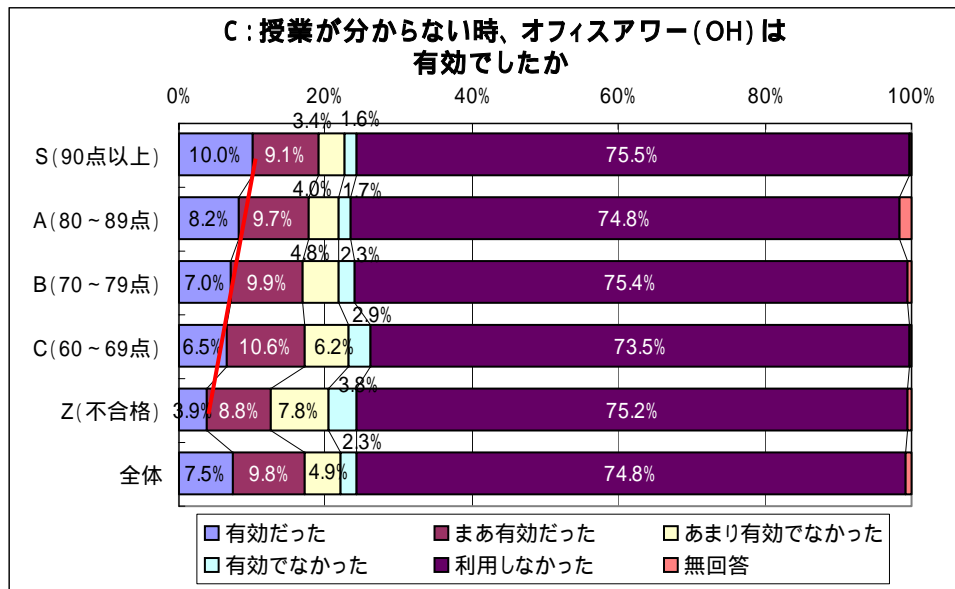
- 成績別に科目に対する興味を見たところ、明確に成績との相関が見られた。
- 科目に対する興味は成績が良い層ほど強く、「十分に持てた」と「持てた」を合わせた割合を見ると、成績がSの層では78.1%であるが、Aでは72.1%、Bでは64.4%、Cでは54.6%であった。そして、成績がZの不合格層では38.2%にとどまった。
- 成績と科目に対する興味の因果関係は分からないが、成績と興味の間に関連関係があることは確認できた。



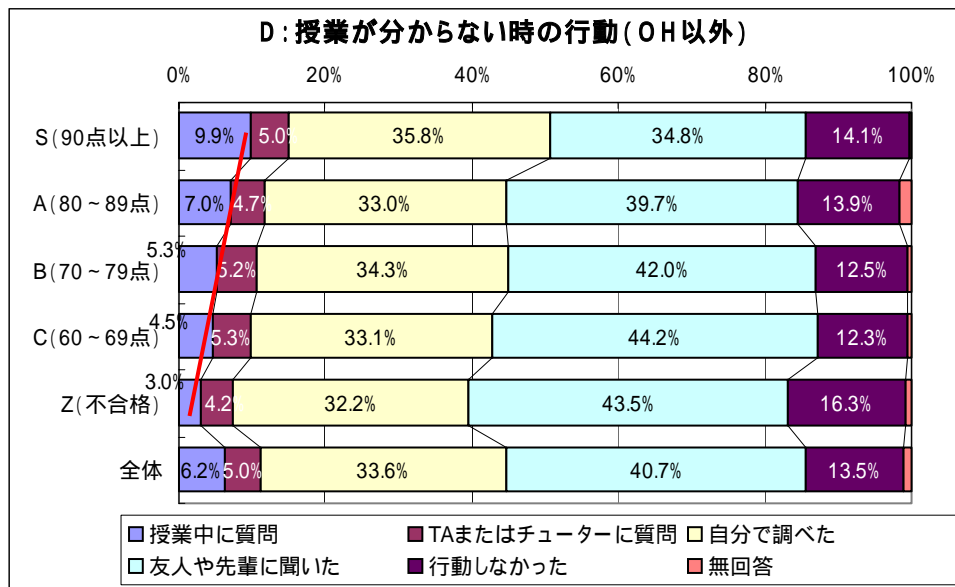
- 1回の授業に対する予習・復習時間に関して、まず、「学習は特にしなかった」の割合を見ると、成績がSとAの層で約30%は「学習は特にしなかった」と回答しており、B、C、Zの約25%よりも多かった。
- 一方、「2時間以上」という割合は成績が良い層ほど多いため、成績が良い層は予習・復習に時間を割いている層と割いていない層の二極分化していることが分かった。
- また、成績が良くない層は「1時間程度」「30分程度」の割合が高く、時間は割いているものの十分ではないという状況が考えられる。



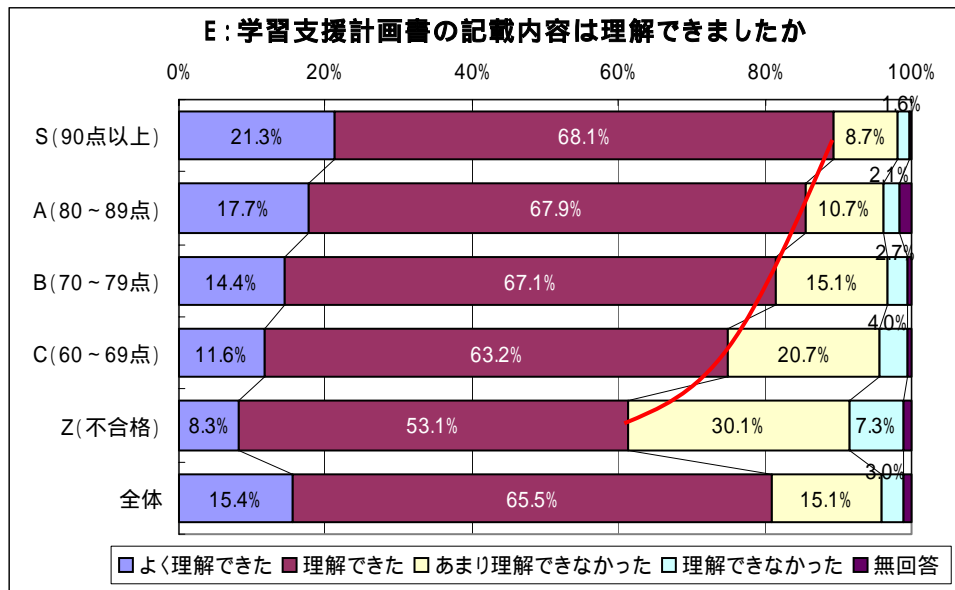
- OHの有効性に関して、まず「利用しなかった」の割合を見ると成績との相関関係はなく、成績に関わらず約75%はOHを利用していないことが分かった。
- 利用していた層のOH評価を見ると、成績が良いほどOHが有効であったと評価している傾向が見られた。
- OHを利用している割合は成績に関係ないが、成績の良い層ほどOHを使いこなしているといえる。



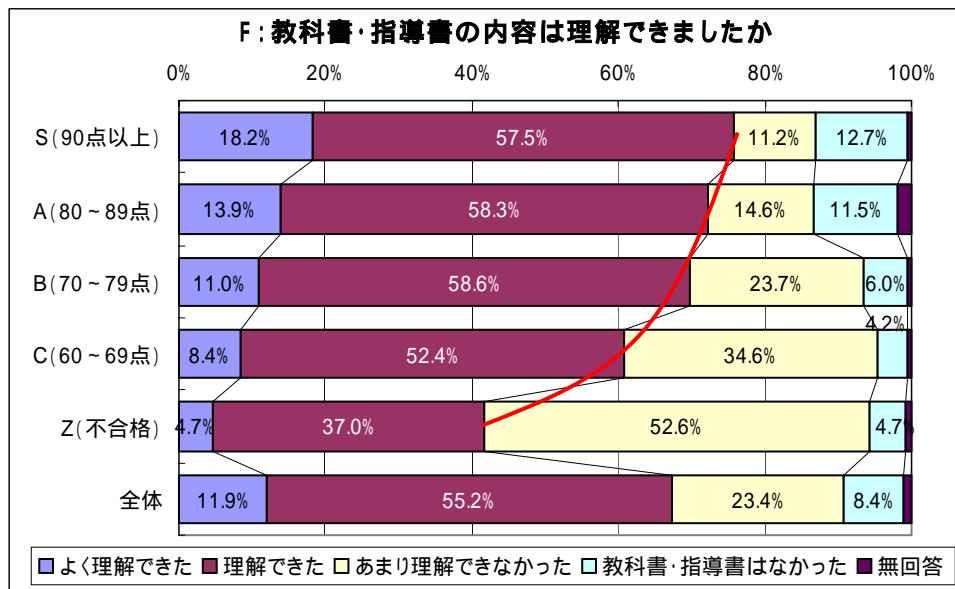
- 授業が分からない時の行動を見ると、成績が良いほど「授業中に質問」している割合が高いことが分かる。
- また、「TAまたはチューターに質問」の割合は成績との相関関係はなく、「自分で調べた」「行動しなかった」も成績との相関は見られなかった。
- そして、「友人や先輩に聞いた」は成績が良いほど少なくなる傾向が見られた。
- これらを見ると、成績が良い層は授業中に質問することで疑問を解決しており、後から友人や先輩などに聞くことは少ない傾向があるといえる。



- 学習支援計画書の理解に関しては、明確に成績との相関関係があり、成績が良いほど理解度が高いといえる。
- 「よく理解できた」と「理解できた」を合わせると、成績がSの層では89.4%が理解できていたが、Cでは74.8%、Zでは61.4%しか理解できていなかった。



- 教科書・指導書の理解に関しても成績との相関関係があり、成績が良いほど理解度が高い傾向が見られた。
- Sクラスでは「よく理解できた」と「理解できた」の合計が75.7%であったが、Zでは41.7%と大きな差が見られた。
- また、成績によって「教科書・指導書はなかった」という割合が変わるといのは不自然であるが、Sでは12.7%が「教科書・指導書はなかった」と回答していた。

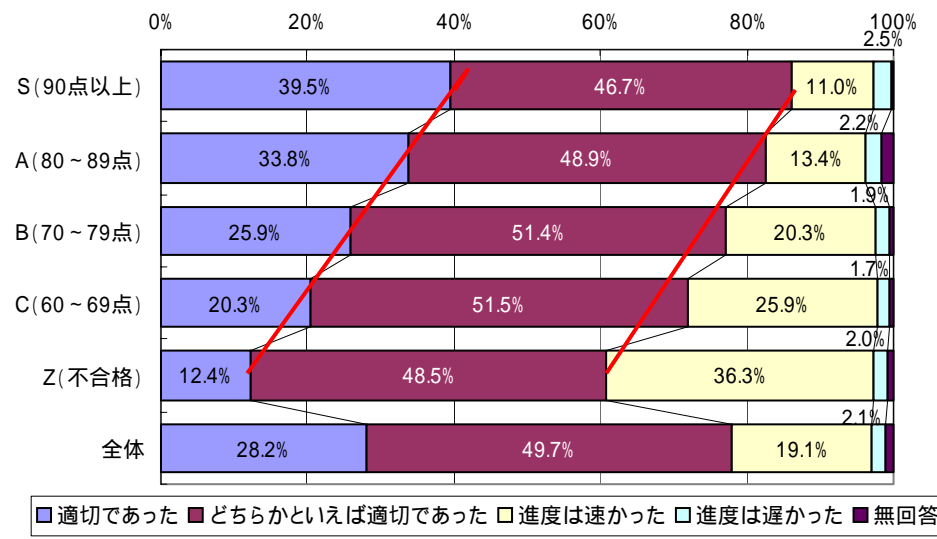




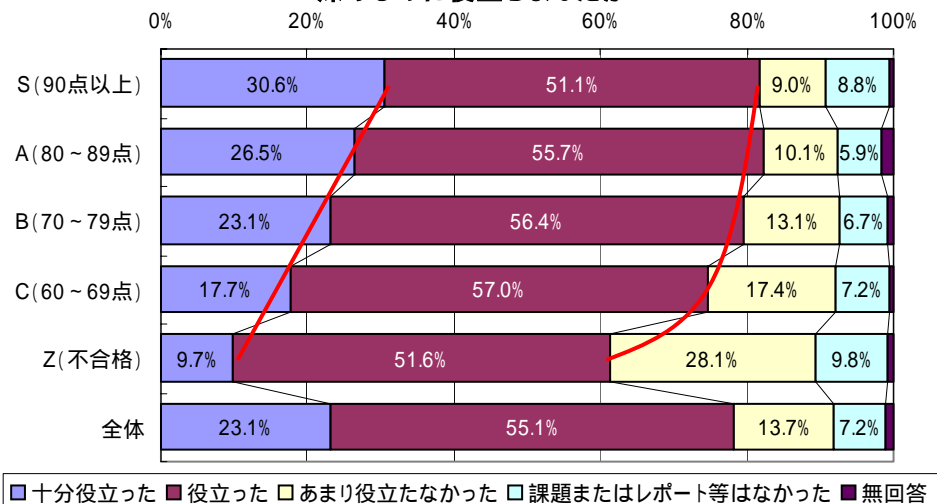
- 授業の進度に関しても成績との相関関係が確認でき、成績が良いほど授業の進度が適切であったと回答していた。
- 詳細を見ると「どちらかといえば適切であった」の割合は成績には関係なく、ほぼ一定であったが、成績が良い層は「適切であった」の割合が高く、成績が良くない層は「進度は速かった」の割合が高かった。
- これらより、成績が良くない層は授業の進度が速いと感じていることが分かる。

- 課題やレポートの有効性に関しても成績との相関関係があり、成績が良い層ほど役立ったと感じている傾向が見られた。
- 成績がSからCまでは7～8割程度が課題やレポートが役立ったと感じていたが、成績がZの不合格層では約6割しか役立ったと感じておらず、意識の差が分かる結果であった。

G: 授業の進度評価

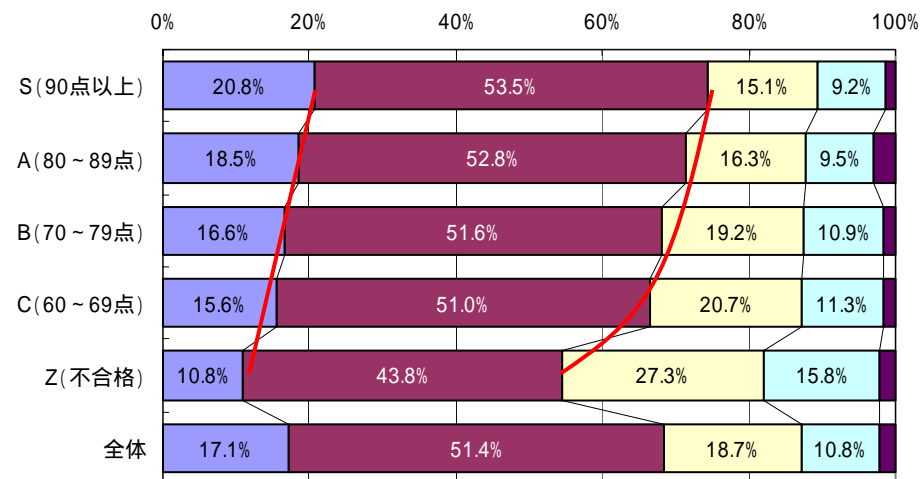


H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



- 自己点検授業の有効性に関しても成績との相関関係が見られた。
- 「効果的」だけを見ると成績が良い層と良くない層で、それほど大きな差は見られなかったが、「どちらかといえば効果的」を加えた割合を見ると、Zの低さが目立っていた。
- SからCまでの層と、不合格であるZの層との差は、自己点検授業のようなサポートの使いこなしにもあると思われる。

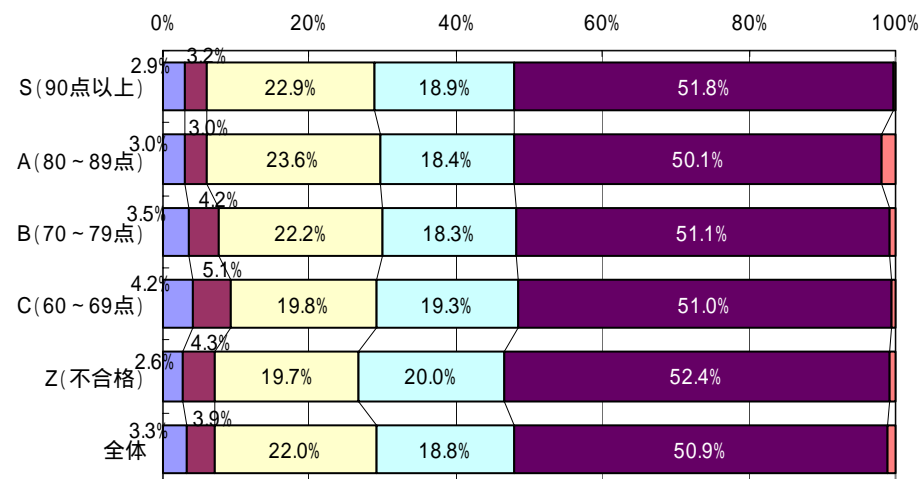
I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



■ 効果的 ■ どちらかといえば効果的 □ あまり効果的でなかった □ 効果的でなかった ■ 無回答

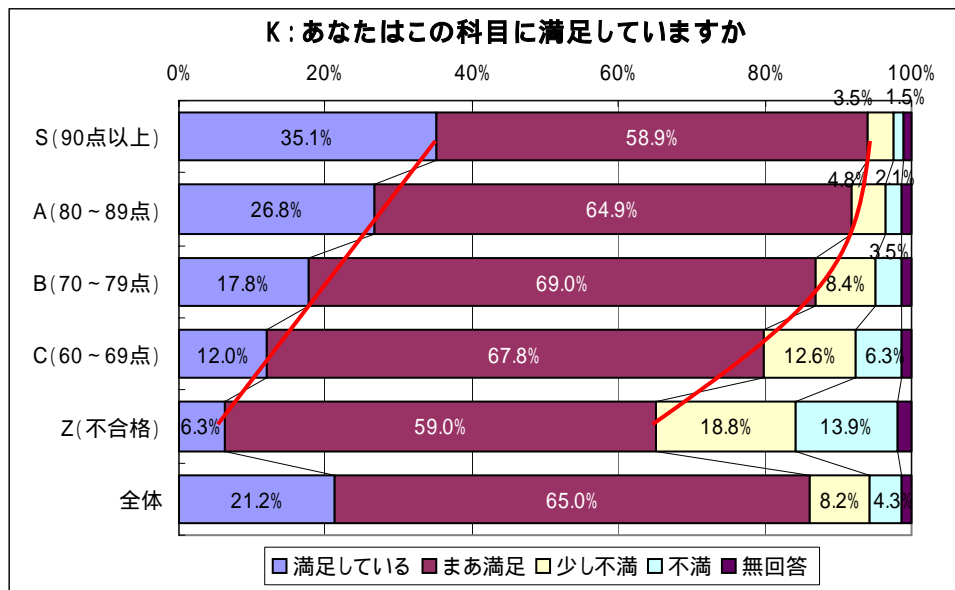
- 授業の理解を深めるために使った場所に関しては、成績との相関は全くなく、成績に関わらずほぼ同じ結果となった。
- 成績と勉強する場所には関係はなく、どこで学習するのが効率的であるかと決めることはできないといえる。

J: 授業の理解を深めるために使った場所



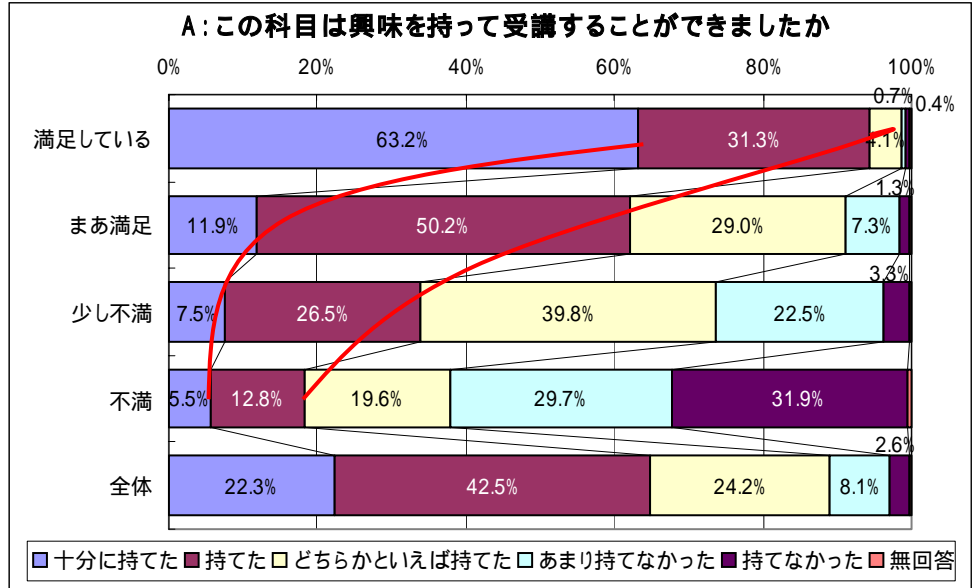
■ 工学基礎教育センター ■ 学習支援デスク □ LC □ 自習室 ■ 学内施設は利用しなかった ■ 無回答

- 科目の満足度も成績との相関関係があることが確認できた。
- まず、「満足している」だけを見ると成績がSの層では35.1%が満足しているが、Zでは6.3%にとどまり、非常に大きな差があることが確認できた。
- また、「満足している」と「まあ満足」を合わせると、Sでは94.0%が満足していたが、Cでは79.8%となり、Zでは65.3%にとどまっていた。
- 成績が良い層の満足度が低くなるのは当然ともいえるが、今後は成績とともに満足度も向上させる方策が必要となる。

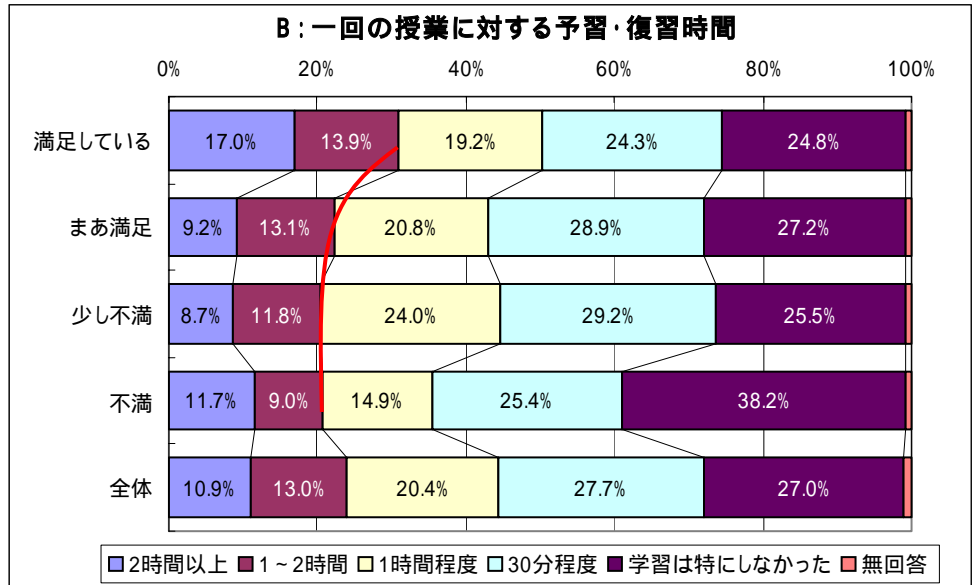


## < 8 > 満足度別の比較

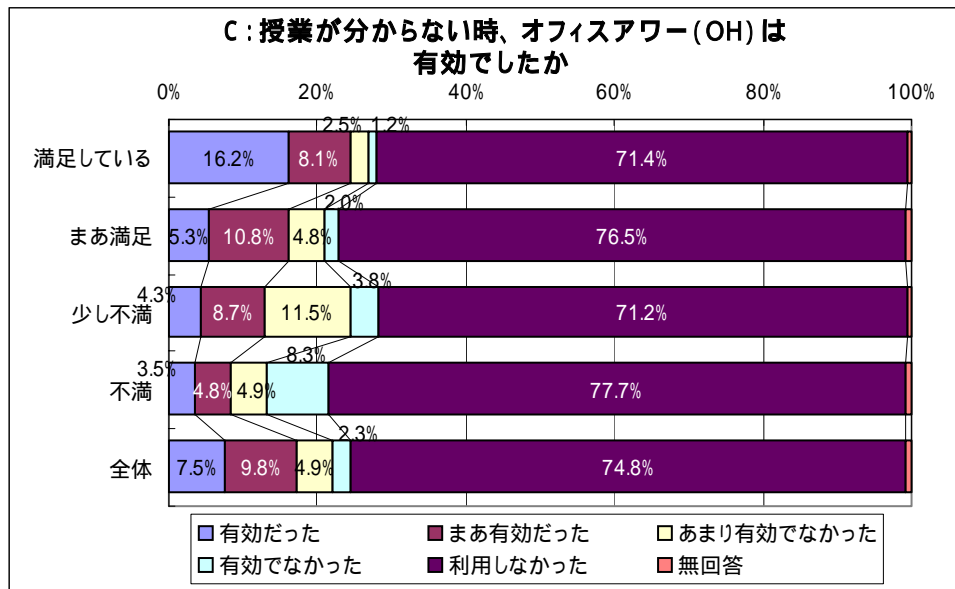
- 授業に対する満足度の違いによる意識の差を見た。
- まず、科目に対する興味に関しては満足度との相関関係が見られ、授業に対して満足している層ほど科目に対して強い興味を持っていることが分かった。
- 特に「満足している」層では63.2%と過半数が科目に対する興味を「十分に持てた」と回答しており、興味と満足度が強い関係にあることが分かる。
- 授業に対して「不満」を持っている層は、興味に関しても31.9%が「持てなかった」と回答しており、「あまり持てなかった」を加えると61.6%が興味を持てていなかった。



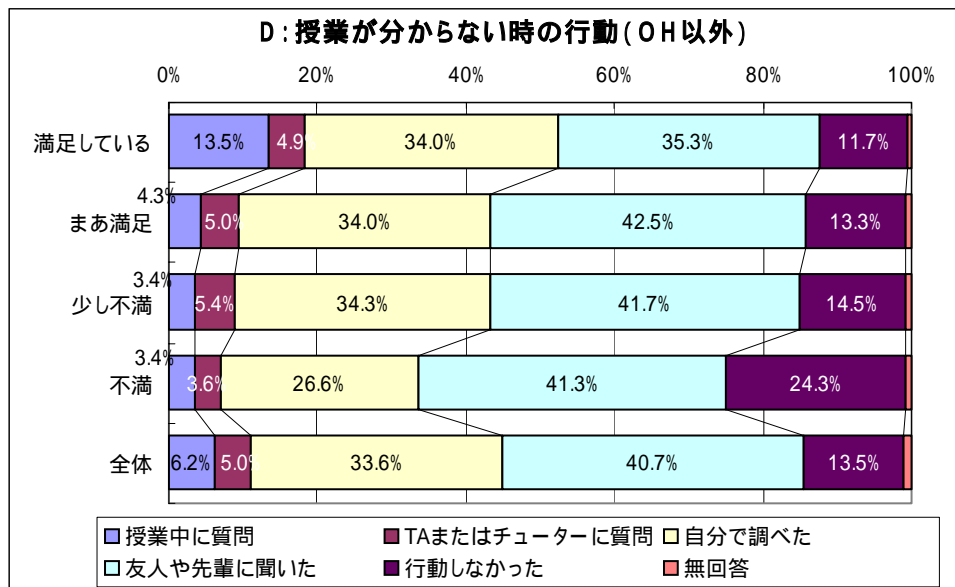
- 満足度別に予習・復習時間を比較したところ、「満足している」層は予習・復習時間が少し長目であった。
- しかし、「まあ満足」「少し不満」の層はほとんど同じであった。
- また、「不満」層は「学習は特にしなかった」が多めであったが、予習・復習に充てる時間はそれほど短いわけではなかった。
- これらを見ると、満足度と予習・復習時間の間には、わずかに相関関係はあるが、それほど強いものではないといえる。



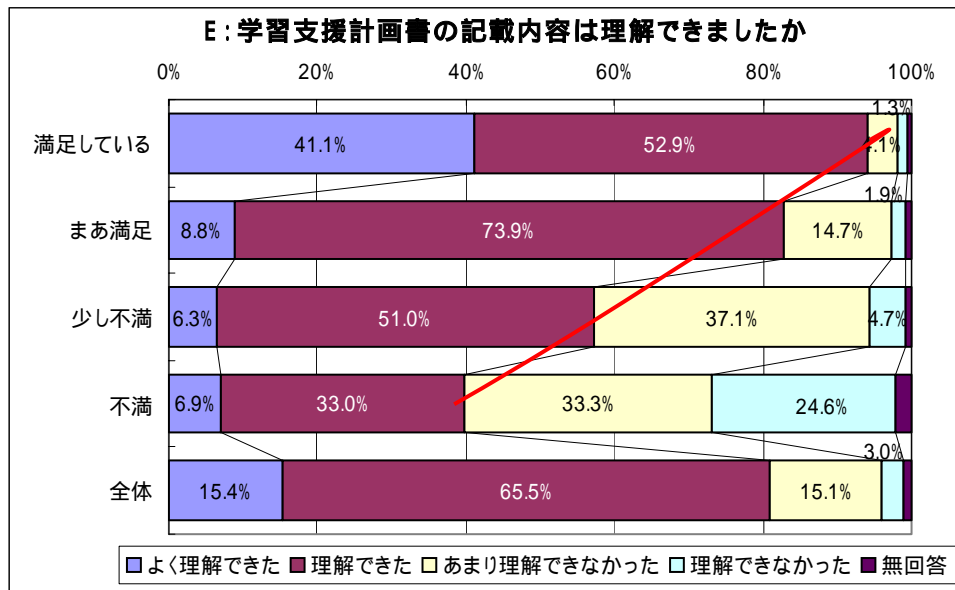
- OHの有効性に関しては、「有効だった」と満足度との間に相関関係が見られ、満足度が高い層ほどOHの有効性を感じていることが分かる。
- 上記の内容を見ると、満足度が高い層ほどOHをよく使っているようにも思えるが、数値的には満足度とOHの利用度の間には明確な相関関係は見られなかった。



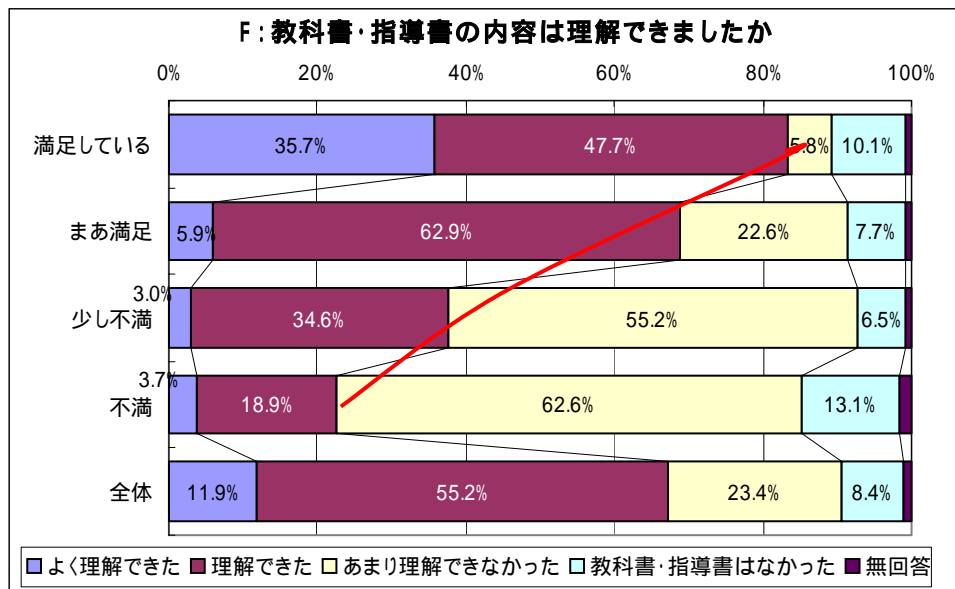
- 授業が分からない時の行動に関しても、「満足している」層と「不満」層には特徴が見られたが、「まあ満足」と「少し不満」の層の回答はほとんど同じような内容であった。
- 「満足している」層は授業中に質問している割合が多く、「友人や先輩に聞く割合が少ない。授業が分からない時は持ち帰ったり周囲に聞くのではなく、その場で解決している傾向が強いことが分かる。
- 一方、「不満」層は「自分で調べる」割合が少なく、「行動しなかった」割合が多い傾向が見られた。



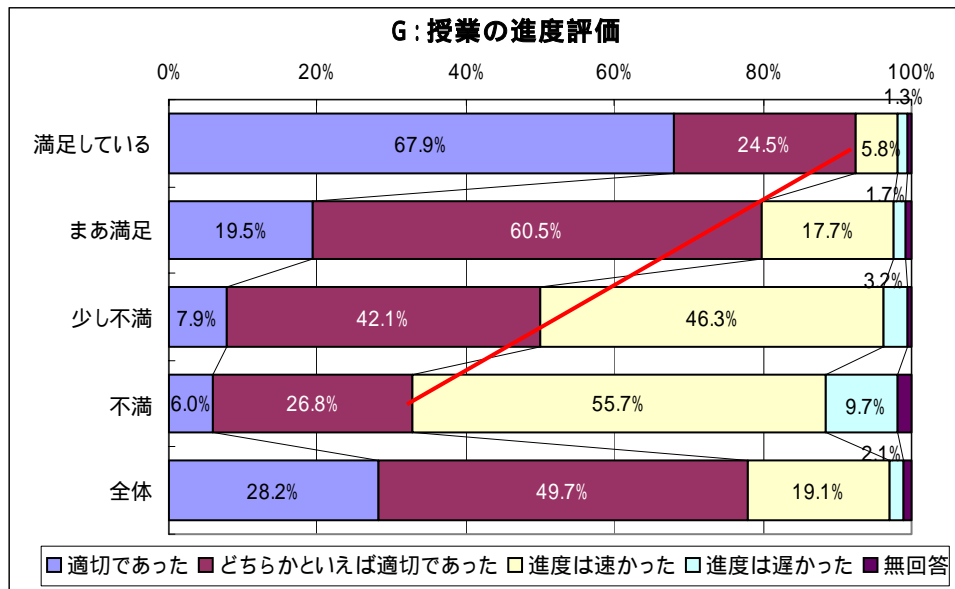
- 満足度と学習支援計画書の理解度の間には明確に相関関係が認められ、満足度が高いほど理解度が高いことが分かった。
- 特に、「満足している」層では「よく理解できた」という割合が非常に高く、「まあ満足」「少し不満」などの層では、学習支援計画書を理解しているといっても、それほど理解度が高い訳ではないといえる。



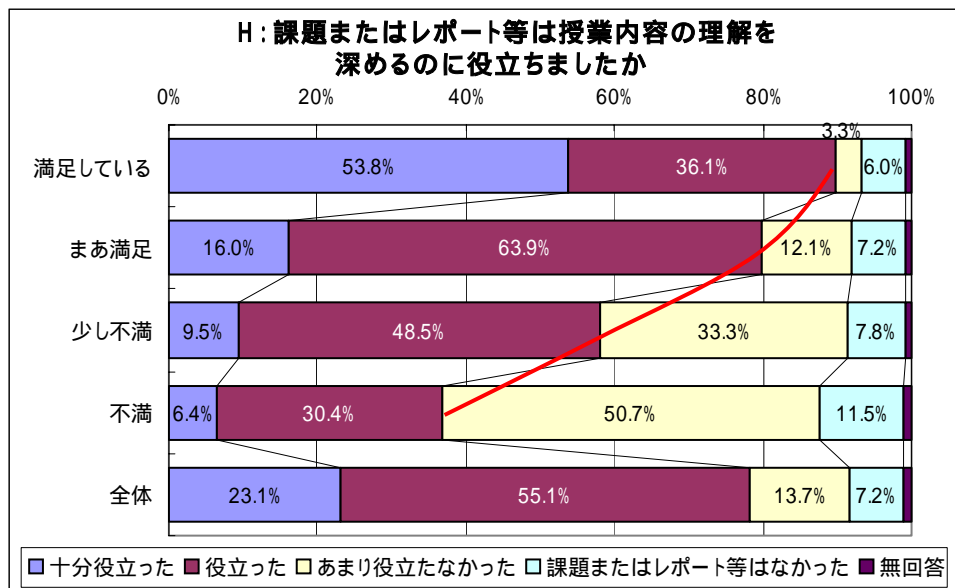
- 教科書・指導書の理解度に関しても、満足度との間に相関関係が見られ、満足度が高いほど教科書・指導書の理解度が高いことが分かる。
- また、ここでも「満足している」層は「よく理解できた」の割合が非常に高く、「満足している」層は教科書・指導書の理解度も、低い理解度ではなく、非常によく理解できているといえる。



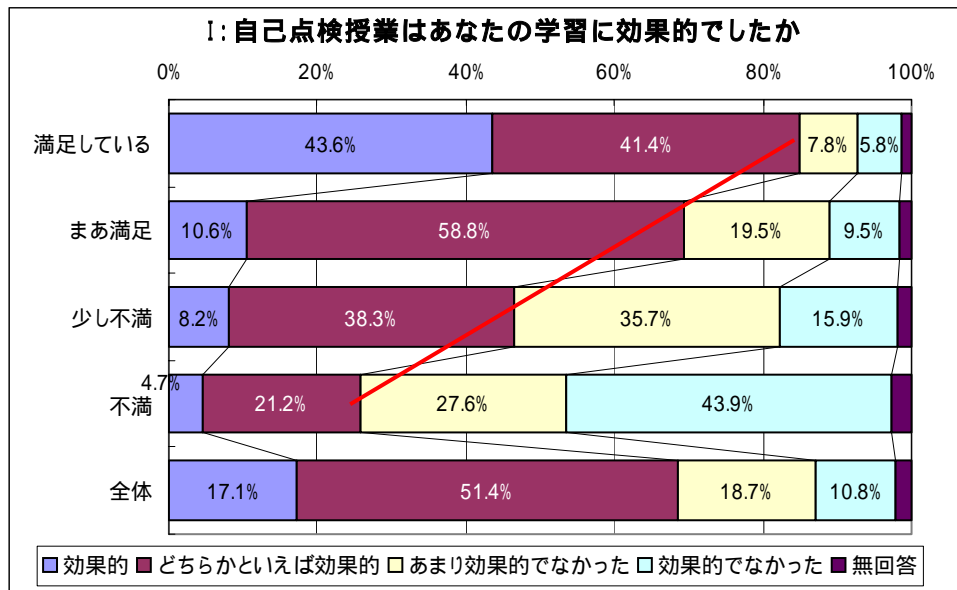
- 授業の進度についても満足度との間に相関関係が見られ、満足度が高いほど授業の進度も適切だと感じている。
- 授業自体を「不満」と感じている層は「適切であった」が6.0%、「どちらかといえば適切であった」が26.8%であり、合わせても32.8%にとどまった。
- また、「不満」層は「進度は速かった」と回答している割合が圧倒的に高く55.7%を占めたが、「進度は遅かった」と回答している割合も9.7%と、他の層に比べて少し高めであった。



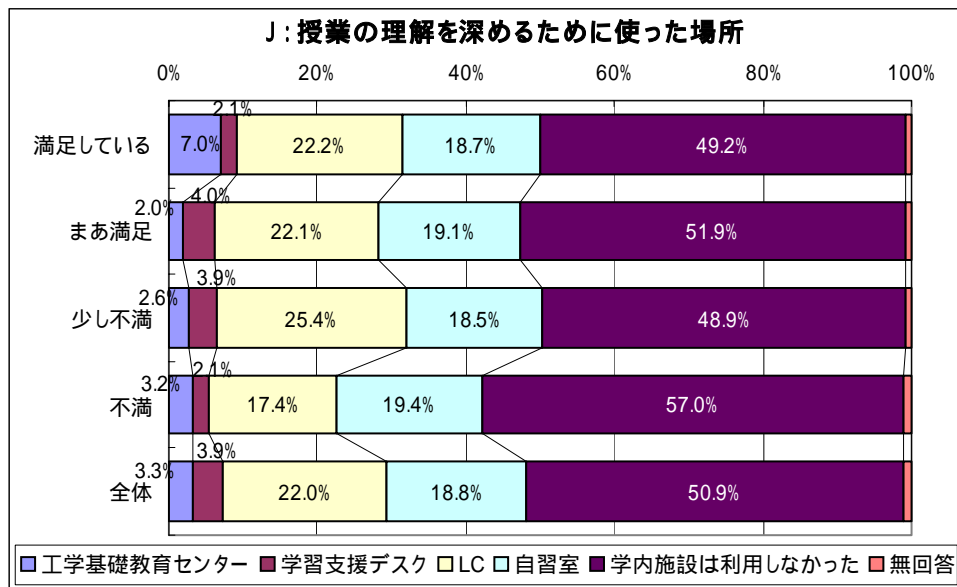
- 課題・レポートの評価についても、満足度が高いほど課題・レポートが役立っていると感じている傾向が見られた。
- また、「満足している」層は「十分役立った」の割合が高めであった。



- 自己点検授業の有効性に関しても、満足度が高いほど自己点検授業の有効性を認めている傾向が見られた。
- ここでも「満足している」層の自己点検授業評価は非常に高かったが、授業に対する満足度が高い層は、色々と用意されている学習サポート機能をうまく使っているといえる。



- 授業の理解を深める場所に関しては、「満足している」層は「工学基礎教育センター」をよく使っている傾向が見られた。
- また、「不満」層は「LC」の利用度合いが低く、「学内施設は利用しなかった」の割合が高めであった。



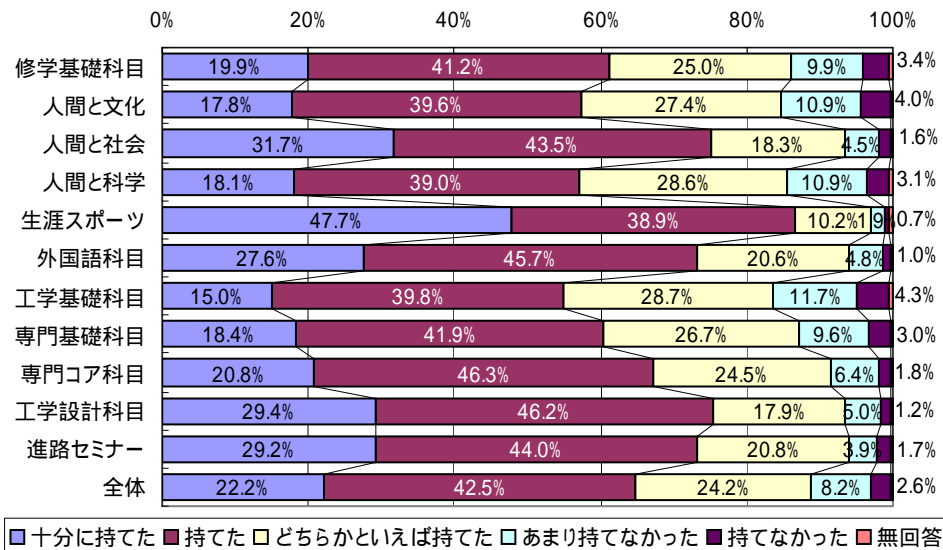


## <9> 科目区分別の比較

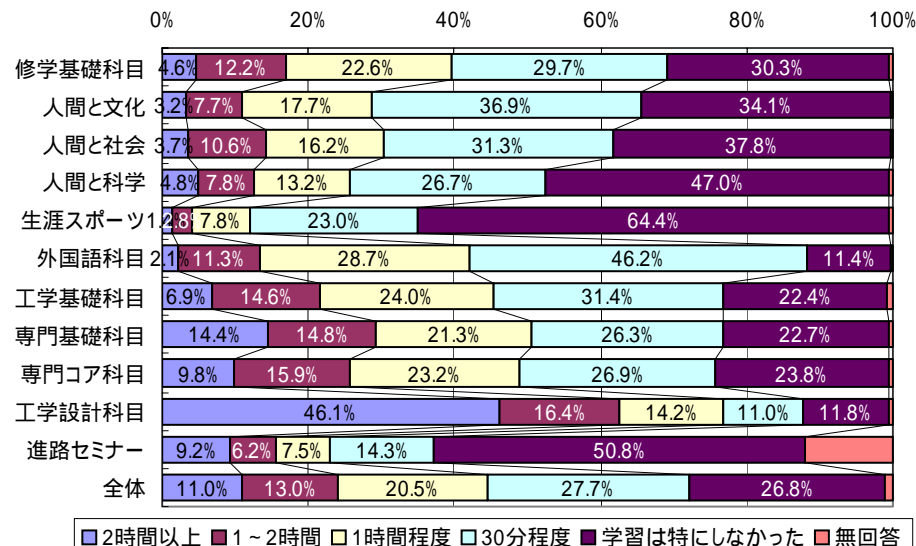
- 科目に対する興味を科目区分別に見ると「生涯スポーツ」が最も興味を持たれており、「十分に持てた」と「持てた」を合わせると86.6%が興味を持っていた。
- 次いで「工学設計科目」「人間と社会」「外国語科目」「進路セミナー」が興味を持たれていた。
- 逆にあまり興味を持たれていないものは「工学基礎科目」「人間と文化」「人間と科学」といった科目であった。

- 一回の授業に対する予習・復習に関して、まず、「学習は特にしなかった」の割合が高い科目を見ると、「生涯スポーツ」「進路セミナー」といった、予習・復習に時間を割く必要がない科目が見られた。
- 次いで、「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「修学基礎科目」などにはあまり時間を割かれていなかった。
- 逆に、「学習は特にしなかった」の割合が低い科目は、「外国語科目」「工学設計科目」であり、これらには予習・復習が不可欠と考えているようであった。
- 時間の長さを見ると「工学設計科目」が突出しており、「2時間以上」が46.1%と、予習・復習に非常に長時間を充てていた。
- その他、「専門基礎科目」「専門コア科目」「工学基礎科目」など、専門系の科目に時間が充てられていた。

A: この科目は興味を持って受講することができましたか



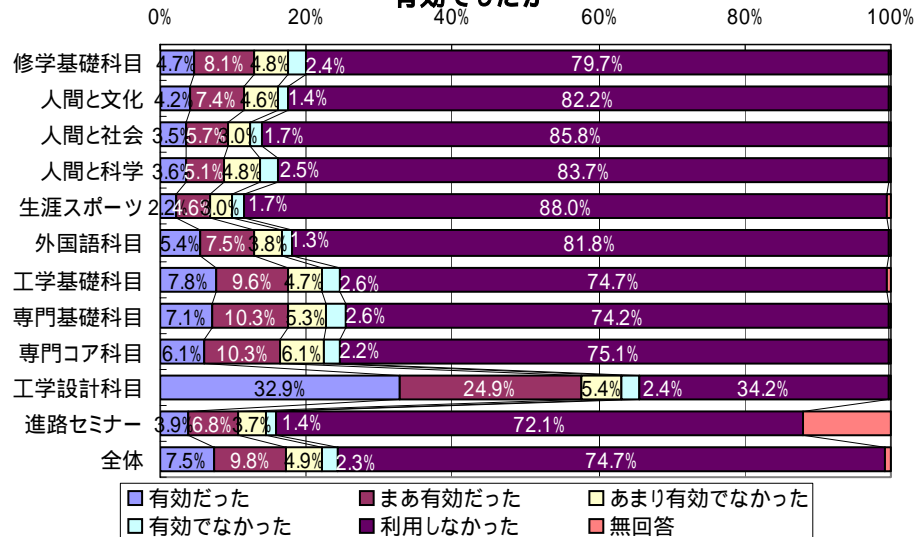
B: 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか



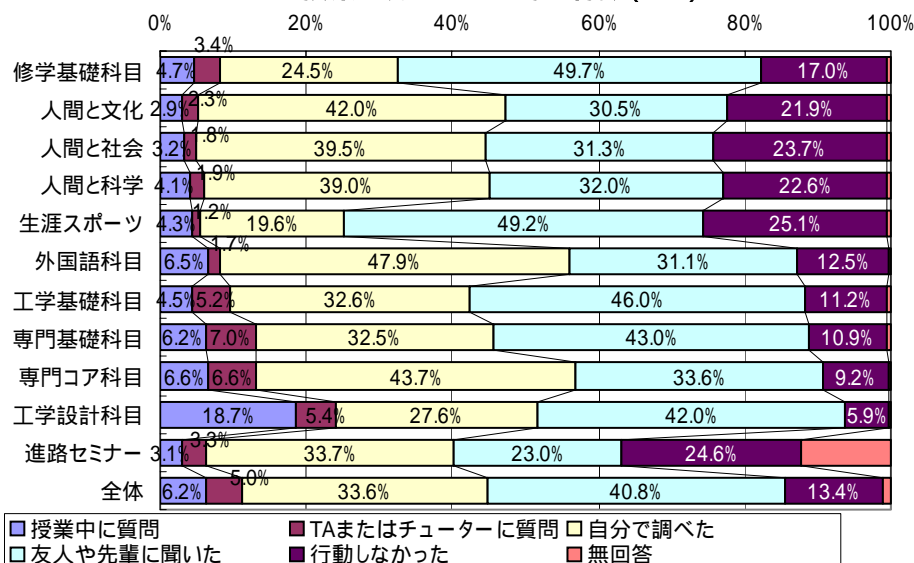
- OHの有効性に関しては、「工学設計科目」以外の結果はほとんど同じで、8割前後は「利用しなかった」という回答であった。
- 「工学設計科目」ではOHを「利用しなかった」という回答は34.2%にとどまり、利用率が高いことが分かる。
- また、「工学設計科目」でのOH利用者は32.9%が「有効だった」と回答しており、「まあ有効だった」(24.9%)と合わせると57.8%となり、利用者の大多数がOHが有効だったと回答していた。

- 授業が分からない時の行動に関しては「修学基礎科目」「生涯スポーツ」「工学設計科目」に特徴が見られた。
- 「修学基礎科目」と「生涯スポーツ」は他と比べて「自分で調べた」割合が少なく、「友人や先輩に聞いた」割合が高めであった。
- 「工学設計科目」は「授業中に質問」の割合が多く、疑問点は授業中に解消している傾向がうかがえる。
- その他、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目も「授業中に質問」「TAまたはチューターに質問」の割合が高めであった。
- また、「人間と文化」「人間と社会」「人間と科学」は、「行動しなかった」の割合が高めであった。

C: 授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか



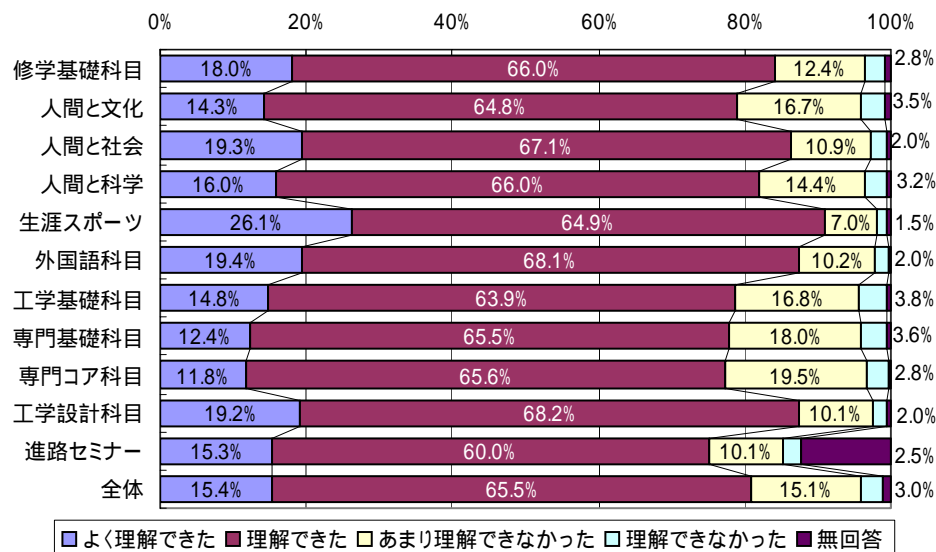
D: 授業が分からない時の行動(OH)



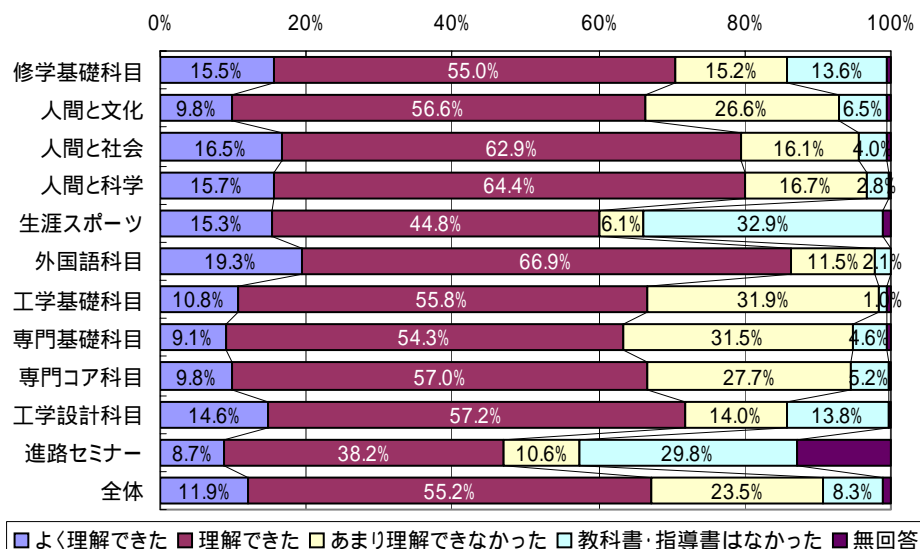
- 学習支援計画書の理解に関しては、科目区分間で大きな差は見られなかった。
- 差は少ないが、理解度が高かったのは「生涯スポーツ」「工学設計科目」「外国語科目」「人間と社会」「修学基礎科目」などであった。

- 教科書・指導書の内容の理解に関して、「生涯スポーツ」「進路セミナー」の2つは「教科書・指導書はなかった」という割合が高かった。
- その他、教科書・指導書がある科目を見ると「外国語科目」が最も理解できていたようである。次いで、「人間と科学」「人間と社会」の理解度が高かった。
- 逆に教科書・指導書の理解度が最も低かったのは「専門基礎科目」であり、その他、専門科目での理解度が低めであった。「人間と文化」も低めであった。

E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



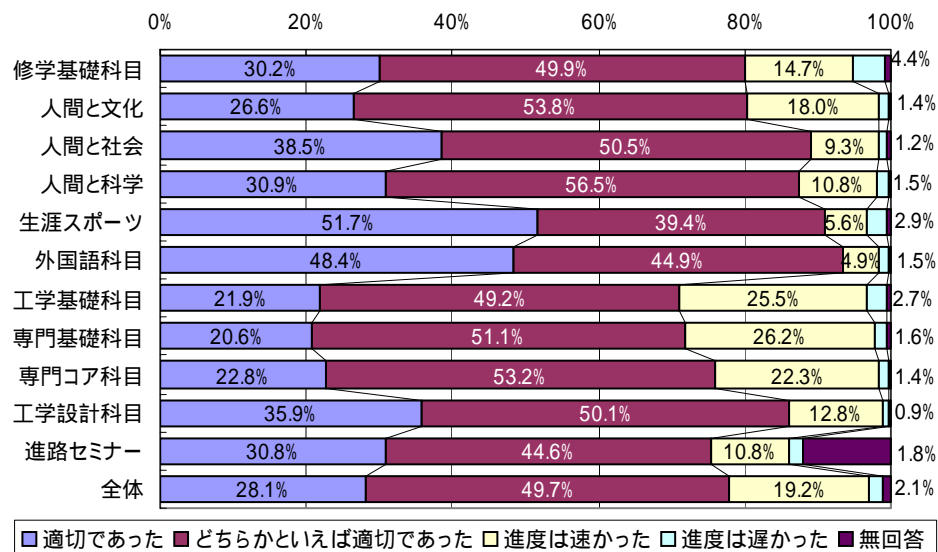
F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



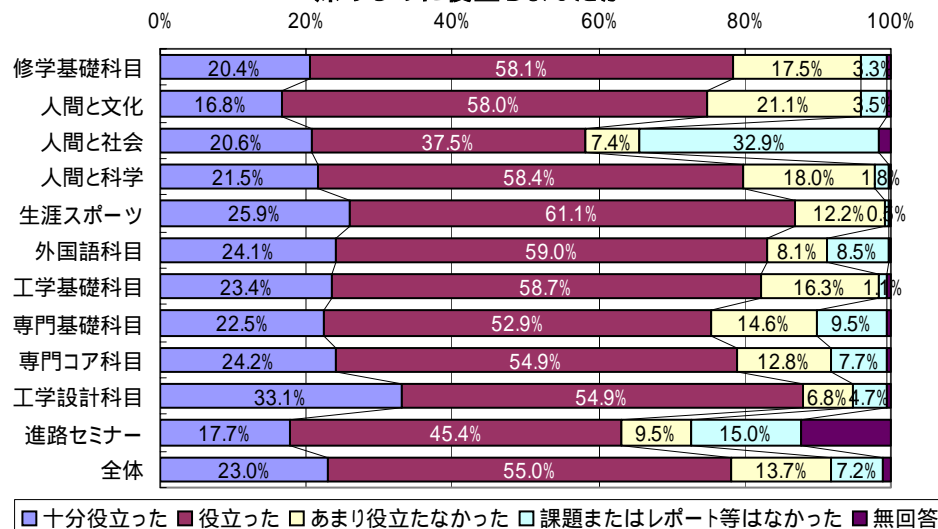
- 授業の進度に関しては、「生涯スポーツ」「外国語科目」の進度が適切であるとの評価であった。
- その他、「人間と社会」「人間と科学」などの一般分野の科目の進度も良い評価であった。
- 逆に「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」などの専門系の科目は進度が速いという評価であった。専門系でも「工学設計科目」の進度の評価は良いものであった。

- 課題・レポートの評価に関しては、「人間と社会」「進路セミナー」で「課題またはレポート等はなかった」という割合が高かった。
- その他の科目では「工学設計科目」で「十分役立った」という割合が高く、課題・レポートがうまく機能していることが分かる。
- 残りの科目での課題・レポートの評価は、ほぼ同ような内容であった。

G: 授業の進度評価



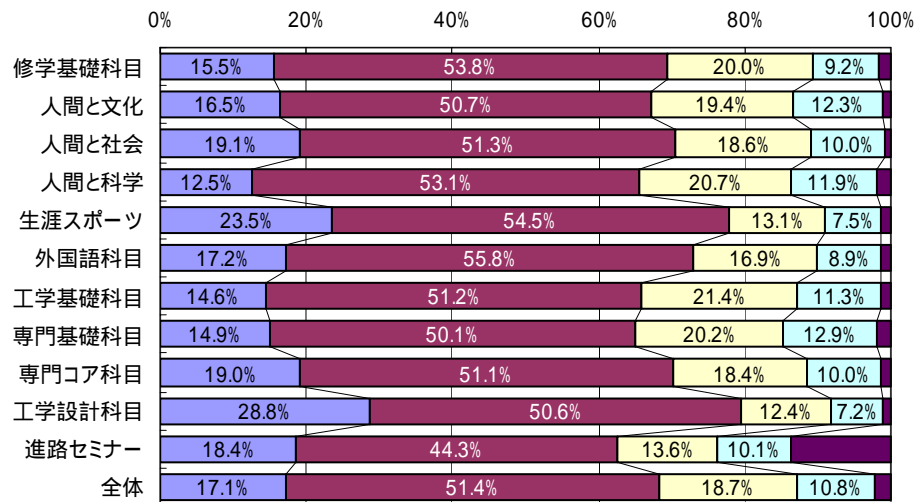
H: 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか



- 自己点検授業の評価に関しては、「工学設計科目」「生涯スポーツ」で「効果的」の割合が高かった。
- その他の科目の評価はほとんど変わらず、自己点検授業を評価する意見は7割弱程度であった。

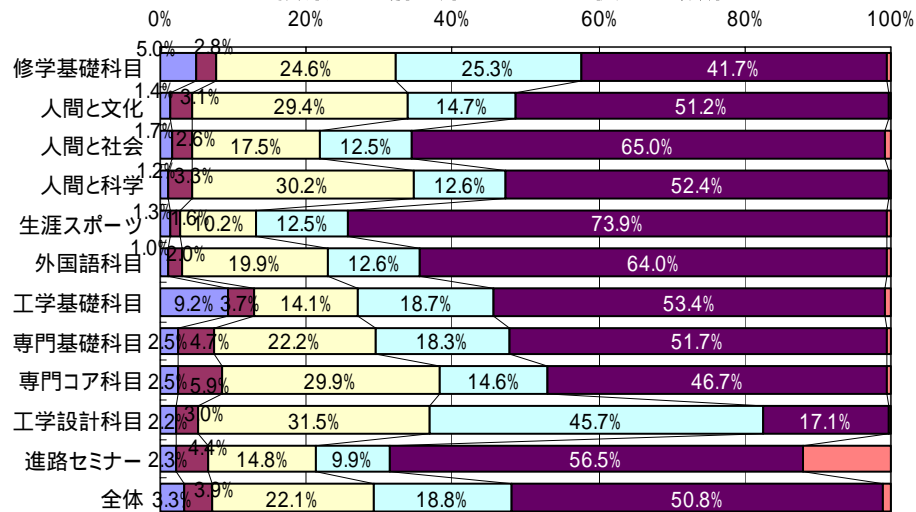
- 授業の理解を深めるために使った場所に関して、「進路セミナー」「生涯スポーツ」といった予習・復習が少ない科目では学内施設は使われていないようであった。また、「外国語科目」「人間と社会」でも学内施設はあまり使われていなかった。
- 特徴的であったのは、「工学基礎科目」では「工学基礎教育センター」が使われており、「工学設計科目」では「LC」や「自習室」が使われていることが分かる。

I: 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか



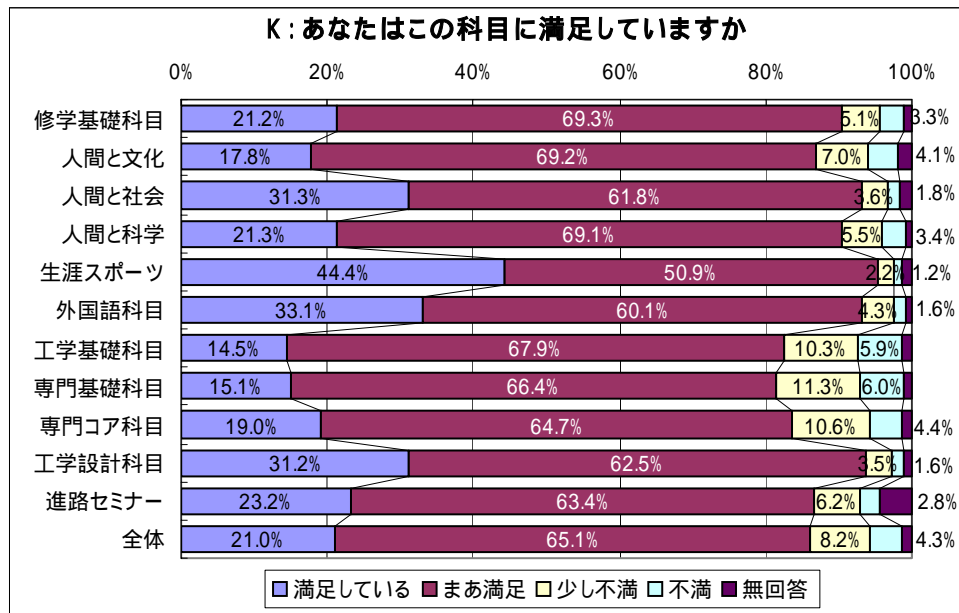
■効果的 ■どちらかといえば効果的 □あまり効果的でなかった □効果的でなかった ■無回答

J: 授業の理解を深めるために使った場所



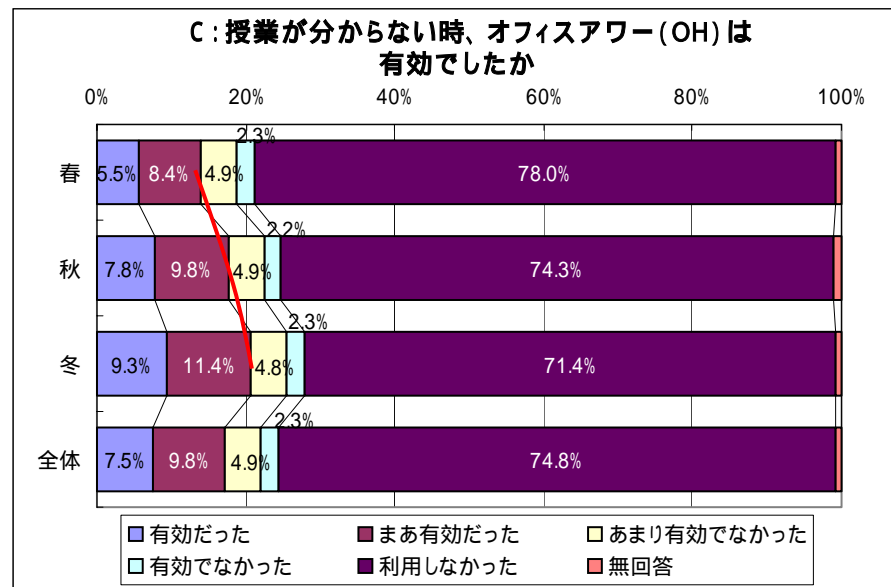
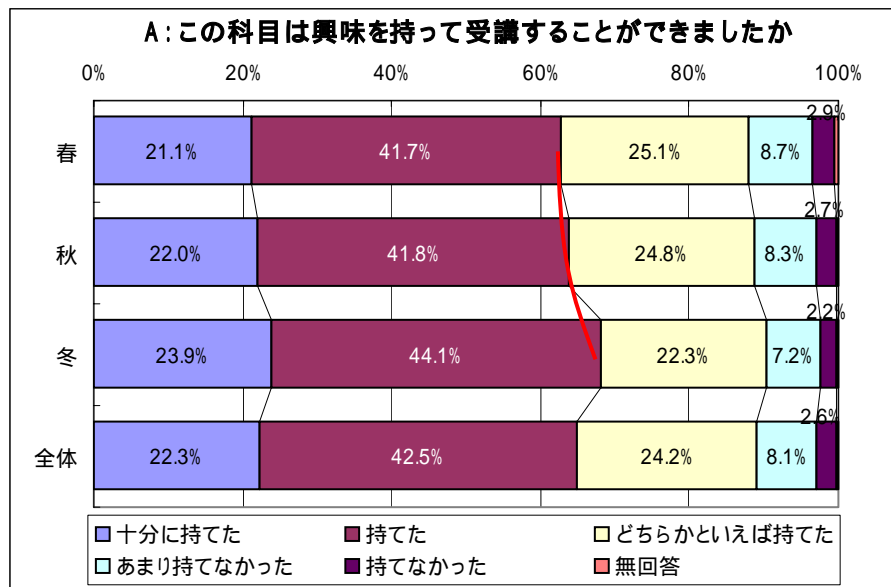
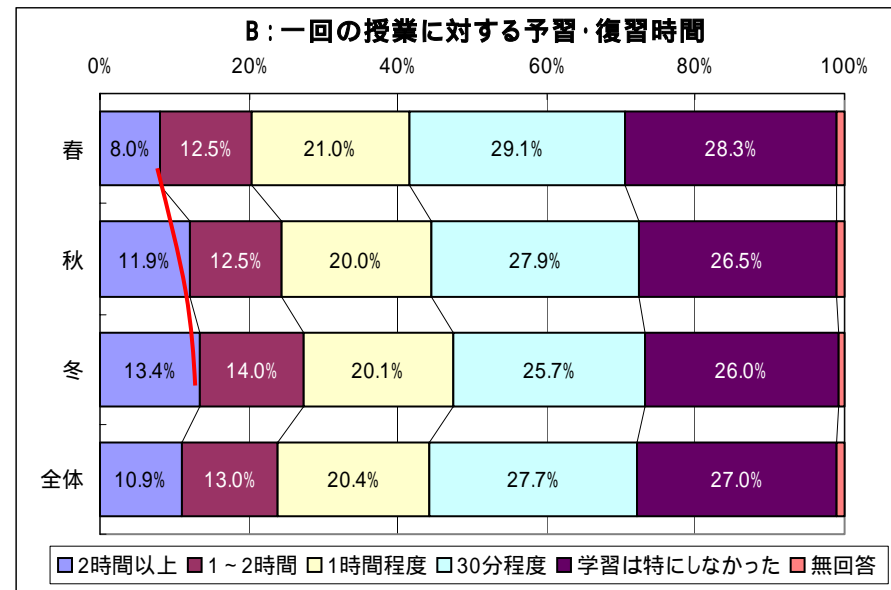
■工学基礎教育センター ■学習支援デスク □LC □自習室 ■学内施設は利用しなかった ■無回答

- 科目区分別の満足度を見ると、「生涯スポーツ」「外国語科目」「人間と社会」といった一般科目と、「工学設計科目」の満足度が高い点が目に付いた。
- 満足度が低めだったのは「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目であり、これらの満足度を上げることが今後の課題になるものと思われる。

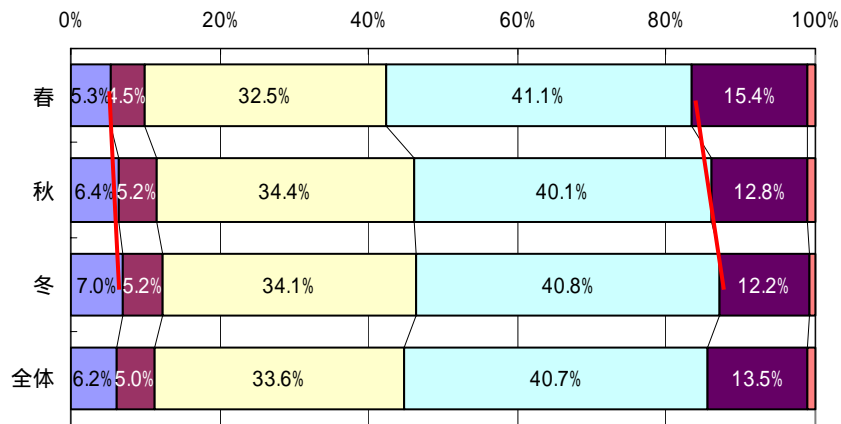


# < 10 > 学期別の比較

- 学期別にどのように意識が変化したかを見たが、いくつかの項目でわずかながら学期を経るに従って意識が変わっているものが見られた。
- 意識の変化が見られたのは、科目に対する興味、予習・復習時間、OHの有効性などであり、学期が進むにつれて授業に対する興味が高まり、予習・復習時間は少し伸び、OHの有効性も認めるようになってきている。また、授業で分からない点があった際には「行動しなかった」という割合が減っており、ここでも学期が進むにつれて積極的になっていることがうかがえる。
- その他の項目は学期との相関関係が認められなかった。

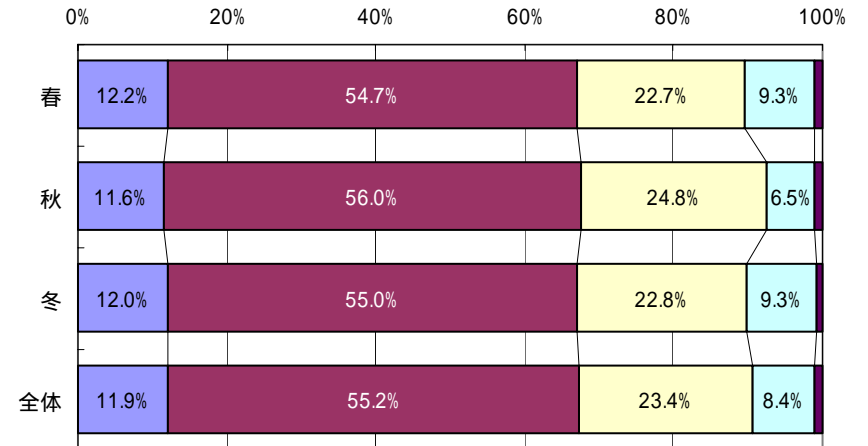


D: 授業が分からない時の行動 (OH以外)



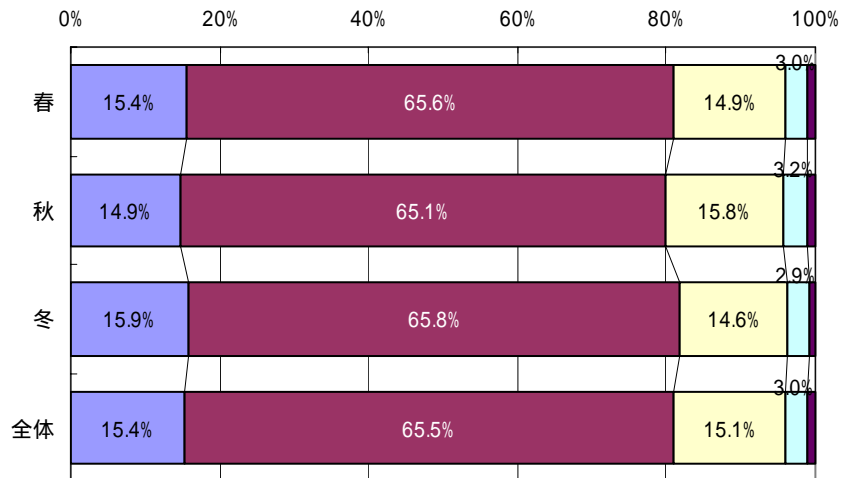
■ 授業中に質問 ■ TAまたはチューターに質問 □ 自分で調べた  
 □ 友人や先輩に聞いた ■ 行動しなかった ■ 無回答

F: 教科書・指導書の内容は理解できましたか



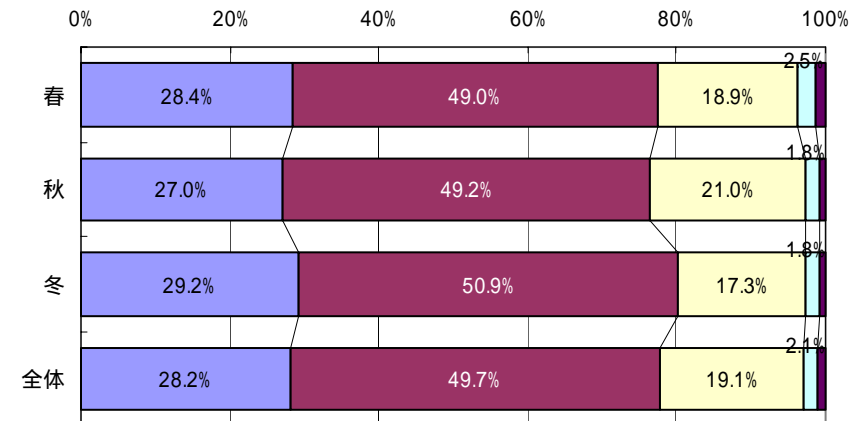
■ よく理解できた ■ 理解できた □ あまり理解できなかった  
 □ 教科書・指導書はなかった ■ 無回答

E: 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか



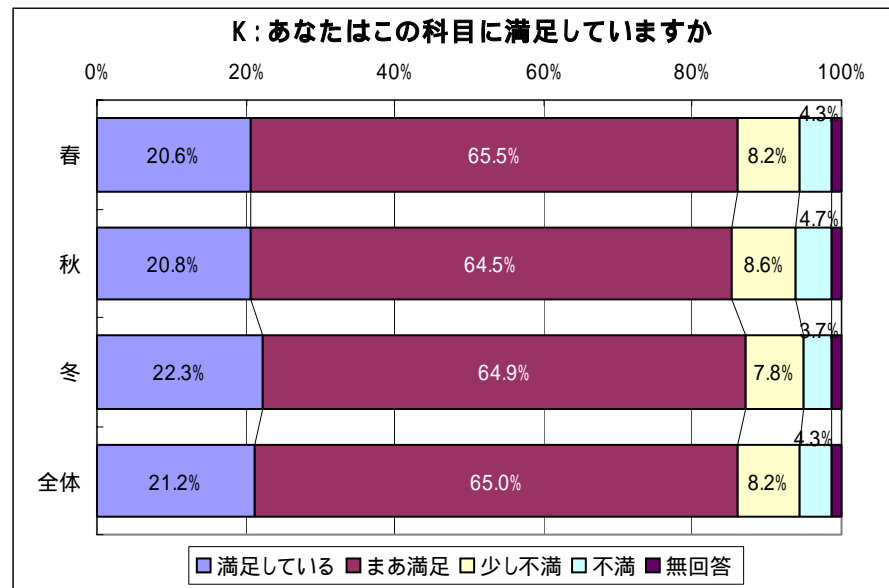
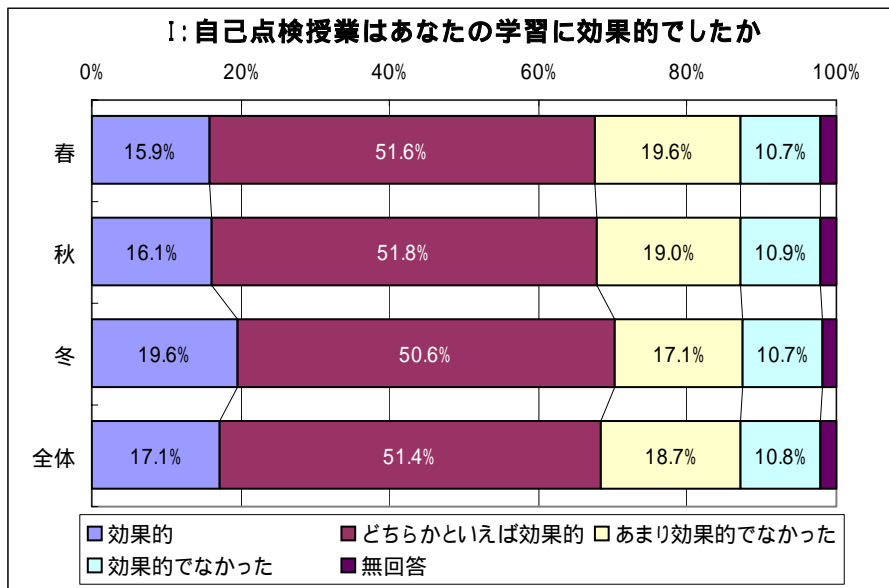
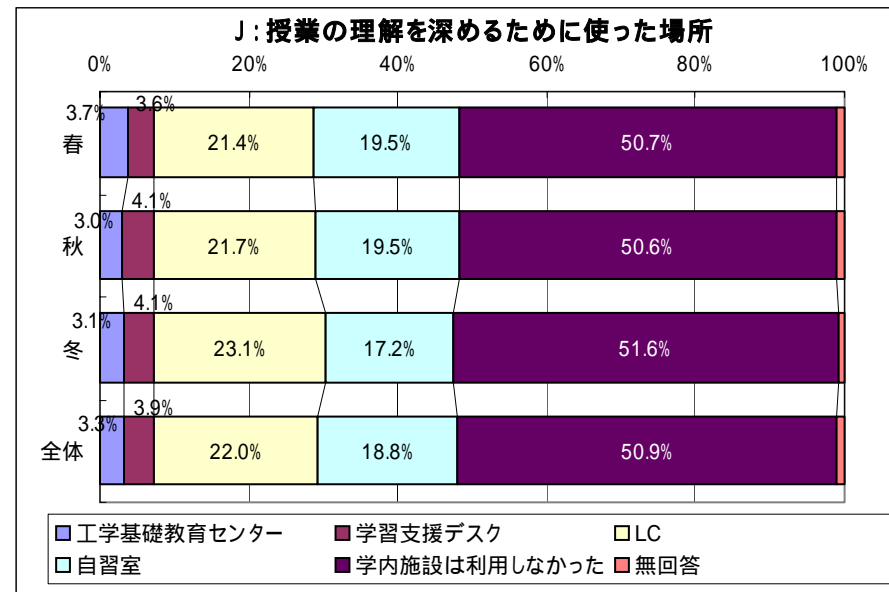
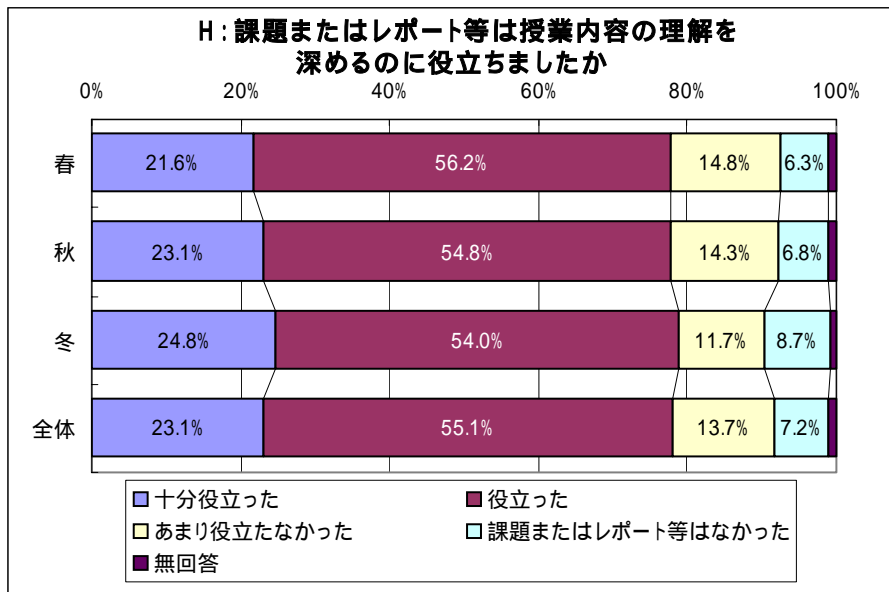
■ よく理解できた ■ 理解できた □ あまり理解できなかった □ 理解できなかった ■ 無回答

G: 授業の進度評価



■ 適切であった ■ どちらかといえば適切であった  
 □ 進度は速かった □ 進度は遅かった ■ 無回答





## <11> まとめ

### 単純集計から分かった事柄

**授業に対する満足度は高く、授業をサポートする機能の評価も高く、大きな問題はなさそうであった。  
ただし、OHやTA、チューター、工学基礎教育センターなど、個人の学習をサポートする機能の利用度が低かった。**

- 9割近くが科目に対する興味を持っており、授業に対して満足しているという回答も8割を超えており、授業全体に対して大きな不満はなさそうであった。
- また、学習支援計画書、教科書・指導書、課題やレポート、自己点検授業、といった授業のサポート面に対しても7割以上が良い評価をするなど、授業の周辺機能に関しても大きな課題は見られなかった。
- ただし、授業が分からない際の行動に関しては少し課題が見られた。OHの利用者は25%程度にとどまっており、「授業中に質問」「TAまたはチューターに質問」といった解決策の利用度も低いなど、個別の学生をサポートする仕組みは十分に機能しているとはいえないものであった。
- 授業の理解を深める場所としても、学内施設を使っていないという意見が半数程度であり、「工学基礎教育センター」「学習支援デスク」などの利用率は低かった。

### 昨年との比較から分かった事柄

**因果関係は明らかではないが、昨年と比較すると授業の進め方や内容の評価は高まっており、  
生徒の方も授業に対して積極的に取り組むようになってきている。**

- 授業への取り組み姿勢は昨年よりも積極的で、教材や授業の進め方に対する評価も上がっており、全体として改善が進んでいる様子であった。
- まず、科目に対する興味は昨年より高まっており、1回の授業に対する予習・復習の時間が伸びているなど、学生自体が積極的に取り組んでいることが確認できた。
- また、学習支援計画書、教科書・指導書の理解度は向上し、課題やレポートも有効であったと評価していた。授業の進度も昨年より良くなったという意見が多かった。具体的に改善があったかどうかは不明であるが、教材や授業の進め方の評価が上がっていることは確かであった。
- OHの有効性に関しては「利用しなかった」という意見が昨年よりも増えていた。内容的に要望に合わないために利用しない層が増加しているかどうかは不明であるが、利用されなくなっていることは明らかであり、その原因を究明して今後の改善策を検討するべきだと思われる。

### クラス（学年）別の比較から分かった事柄

**授業に対する興味や授業の満足度はF・Sクラスが高く、J・Cクラスが低いなどの傾向があったが、Fクラスはフレッシュな状態で  
積極的に取り組んでおり、Sクラスは授業が専門的になっておもしろさを見いだしているといった要因が考えられる。**

- 多くの点で、FクラスとSクラスの評価が高く、JクラスとCクラスの評価が低いという傾向が見られた。
- 満足度に関しては、どのクラスも8割以上が満足しているという結果であったが、前出のようにFクラスとSクラスの満足度が高く、JクラスとCクラスが低めであった。
- Sクラスは授業への興味を強く持っており、Jクラスが最も興味が低かった。そして、予習・復習の時間はCクラスとSクラスが長めであった。
- 学習支援計画書、教科書・指導書、課題やレポートなどの授業のサポートに関しては、学年による差は少ないが、F・Sクラスが高めで、J・Cクラスが低めであった。
- そして、学年が上がるほど授業の分からない点は友人や知人に聞くよりも自分で調べるようになってきており、学習の場所は「LC」が増加していた。

### 学系別の比較から分かった事柄

**学系による差はあまり大きくなかったが、「建築系」が授業に積極的に取り組んでいる傾向が見られた。  
その他、「材料系」は授業の予習・復習にあまり時間を割いておらず、「情報系」は勉強に学内施設を使っていないといった特徴があった。**

- 授業に対する満足度は学系による差はそれほどなかったが、「建築系」が科目に対する興味を強く持っており、予習・復習時間も多く割いているなど、積極的な面が見られた。また、「建築系」はOHの利用率が高く、教科書・指導書の理解度、課題やレポートの有効性も高いなど、前向きな状況が見られた。
- 「材料系」は興味や満足度には特徴はないが、予習・復習時間が最も短くて授業で分からない点があっても何も行動しないという割合が高かった。そして、授業の進度に関する満足度は最も高いなどの特徴が見られた。
- その他の項目では学系による差があまりなく目立った特徴はなかったが、「情報系」は授業のための勉強では学内施設を利用していない割合が高かった。

### 成績別の比較から分かった事柄

**授業に対する興味や満足度、授業のサポート面に関しては成績との相関関係があり、  
成績が良い層ほど授業に興味を持ち、サポート面を高く評価しており、結果として授業に対する満足度が高いといえる。**

- 成績別の比較では、ほとんどの設問で成績との相関関係が見られ、成績が良いほど積極的で満足度も高く、授業サポートの評価も高かった。
- 授業に対する興味は成績による差が大きく、成績がSでは8割程度が満足していたが、不合格者では満足している層は4割に満たなかった。
- 満足度に関しては、それほど大きな差ではなくSでは9割以上が満足しており、不合格者でも7割弱が満足していた。
- 授業のサポート面でも成績が良い層ほど満足度が高かったが、OHの利用度や授業の理解を深めるために使った場所などは成績による差は見られなかった。
- また、特徴的であったのは予習・復習の時間であり、成績が良い層は多くの時間を割いている学生が多くいる一方で学習は特にしなかったという学生も多く見られ、時間を割いている層とそうではない層の2極分化が見られた。

### 満足度別の比較から分かった事柄

**因果関係は不明であるが、満足度と授業に対する興味の相関関係は非常に強いことが分かった。  
また、サポート面の評価も満足度と相関関係があり、興味を持たせる工夫が満足度や成績につながるといえる。**

- 成績別の比較と同様に、満足度が高い層ほど授業に対する興味が強いことが確認できた。授業に対して「満足している」と回答した層は9割以上が授業に興味を持っていたが、「不満」と回答した層では興味を持っていたのは2割に至らず、興味と満足度の強い相関関係が確認できた。
- また、学習支援計画書や教科書・指導書の理解、自己点検授業の評価なども、満足度によって大きく異なっており、全てにおいて満足度が高い層が高く評価していた。
- 予習・復習時間に関しては、満足度が高い層がわずかに長めであったが、それほど大きな差ではなかった。
- また、OHの有効性や授業が分からない際の行動、授業の理解を深めるために使った場所に関しては、満足度との相関はほとんどなかったといえる。

## 科目区分の比較から分かった事柄

**「工学設計科目」「人間と社会」「外国語科目」は興味を持たれており、満足度も高いという傾向があった。  
逆に、「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系科目の満足度は低めであり、今後の対策が必要かと思われた。**

- まず、「生涯スポーツ」と「進路セミナー」は内容的にも他の科目と異なっているために回答も特徴的であった。「生涯スポーツ」は興味と満足度は最も高かった。そして、「進路セミナー」は特別な授業サポートがなかったと思われるが、サポート面の評価が低めであった。
- 興味に関しては「工学設計科目」「人間と社会」「外国語科目」などが高く、満足度に関しては「外国語科目」「人間と社会」「工学設計科目」が高く、ここでも興味と満足度が一致していた。
- 逆に興味を持たれていなかったのは「工学基礎科目」「人間と文化」「人間と科学」といった一般教養的な基礎的であり、満足度が低かったのは「工学基礎科目」「専門基礎科目」「専門コア科目」といった専門系の科目であった。今後は、専門系の科目の満足度を上げることが必要かと思われる。
- その他、OHは「工学設計科目」では非常に有効であり、TAやチューターは専門系の科目で有効であることが分かった。

## 学期別の比較から分かった事柄

**学期による意識の変化は大きくないが、学期が進むにつれて科目に対する興味が高まり、  
予習・復習時間が伸び、OHの有効性を認めるなど、積極的に行動するようになっていく傾向が見られた。**

- 春、秋、冬の学期による意識の変化はあまり大きくなかったが、いくつかの項目ではわずかな傾向も見られた。
- 意識の変化が見られたのは、科目に対する興味、予習・復習時間、OHの有効性などであり、学期が進むにつれて興味が高まり、予習・復習時間が伸び、OHの有効性を認めるようになる傾向が見られた。
- また、授業で分からないことがあった際の「行動しなかった」という回答の割合が減少しており、学期が進むにつれて積極的に取り組むようになってきているといえる。

「工学設計Ⅰ」に関する授業アンケート

学番番号

クラス

番号

氏名

- A. この科目は興味を持って受講することができましたか。  
 1. 充分に持てた 2. 持てた 3. どちらかといえば持てた 4. あまり持てなかった 5. 持てなかった
- B. 一回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。  
 1. 二時間以上 2. 一〜二時間 3. 一時間程度 4. 三十分程度 5. 学習は特になかった
- C. 授業が分らない時、オプイヌアプワー(OH)は有効でしたか。  
 1. 有効だった 2. まあ有効だった 3. あまり有効でなかった 4. 有効でなかった 5. 利用しなかった
- D. 授業の分らない点はオプイヌアプワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。  
 1. 授業中に質問 2. TAまたはチューターに質問 3. 自分で調べた 4. 友人や先輩に聞いた 5. 行動しなかった
- E. 学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。  
 1. よく理解できた 2. 理解できた 3. あまり理解できなかった 4. 理解できなかった
- F. 教科書・指導書の内容は理解できましたか。  
 1. よく理解できた 2. 理解できた 3. あまり理解できなかった 4. 教科書・指導書はなかった
- G. 授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。  
 1. 適切であった 2. どちらかといえば適切であった 3. 進度は遅かった 4. 進度は速かった
- H. 課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。  
 1. 十分役立った 2. 役立った 3. あまり役立たなかった 4. 課題またはレポート等はなかった
- I. 自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。  
 1. 効果的 2. どちらかといえば効果的 3. あまり効果的でなかった 4. 効果的でなかった
- J. 授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。  
 1. 工学基礎教育センター 2. 学習支援デスク 3. LC 4. 自習室 5. 学内施設は利用しなかった
- K. あなたはこの科目に満足していますか。  
 1. 満足している 2. まあ満足 3. 少し不満 4. 不満  
 3. または 4. と回答した方のみ、どのような点に不満を感じているのか意見を記入ください。

あなたは下記の設問についてどの程度行動できましたか、また行動できますか。

(達成度評価を100%から0%までの6段階で回答してください。)

- L. いろいろな解決策が存在する課題に取り組み、基本的な解決策を導き出すことができる。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%
- M. 顧客の要望等の情報を収集し、分析することが出来る。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%
- N. 設計仕様を作成することができる。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%
- O. 創出した解決策を評価して、実現の可能性が高い解決策を選定することができる。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%
- P. チーム活動を行うことができる。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%
- Q. プレゼンテーションができる。  
 1. 100% 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20% 6. 0%

この科目の考え方や進め方に関する意見を書いてください。

授業に対する教員の取り組みや姿勢についての意見を書いてください。

ご協力ありがとうございました。

---

# 平成15年度年間「授業アンケート」 設問A～K 調査結果報告書

平成16年8月30日発行

発行者	学校法人 金沢工業大学
分析・評価	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学 教育点検評価委員会

---